2023年度
大学院キャリアデザイン学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【X8001】キャリア調査研究法基礎［熊谷　智博］春学期前半/Spring(1st half)…… 1
【X8002】量的調査法［齋藤　嘉孝］秋学期後半/Fall(2nd half)…… 2
【X8003】質的調査法［佐藤　恵］秋学期前半/Fall(1st half)…… 3
【X8004】生涯発達心理学［岡田　昌毅］春学期集中/Intensive(Spring)…… 4
【X8005】教育心理学［田澤　実、輕部　雄輝］秋学期授業/Fall…… 5
【X8006】産業・組織心理学［坂爪　洋美］春学期授業/Spring…… 6
【X8007】キャリアカウンセリング論［廣川　進、高橋　浩］春学期授業/Spring…… 7
【X8008】コミュニティとキャリア［田中　研之輔、安田　節之］秋学期授業/Fall…… 9
【X8009】キャリアガイダンス論［藤田　晃之］春学期集中/Intensive(Spring)…… 11
【X8010】教育経営論［仲田　康一］春学期授業/Spring…… 12
【X8011】キャリア教育論［上西　充子、児美川　孝一郎］春学期授業/Spring…… 13
【X8012】教育社会学［筒井　美紀］春学期授業/Spring…… 15
【X8013】生涯学習論［久井　英輔］春学期授業/Spring…… 16
【X8014】キャリア開発論［武石　恵美子］春学期授業/Spring…… 18
【X8015】人的資源管理論［佐藤　厚］秋学期授業/Fall…… 20
【X8016】経営組織マネジメント論［木村　琢磨］春学期授業/Spring…… 22
【X8017】人事組織経済学［梅崎　修］秋学期授業/Fall…… 23
【X8018】職業キャリア政策論［松浦　民恵］秋学期授業/Fall…… 24
【X8021】キャリアデザイン学演習Ⅰ［上西　充子］春学期授業/Spring…… 26
【X8022】キャリアデザイン学演習Ⅰ［梅崎　修］春学期授業/Spring…… 27
【X8023】キャリアデザイン学演習Ⅰ［木村　琢磨］春学期授業/Spring…… 28
【X8024】キャリアデザイン学演習Ⅰ［児美川　孝一郎］春学期授業/Spring…… 29
【X8025】キャリアデザイン学演習Ⅰ［齋藤　嘉孝］春学期授業/Spring…… 30
【X8026】キャリアデザイン学演習Ⅰ［坂爪　洋美］春学期授業/Spring…… 31
【X8027】キャリアデザイン学演習Ⅰ［久井　英輔］春学期授業/Spring…… 32
【X8028】キャリアデザイン学演習Ⅰ［佐藤　厚］春学期授業/Spring…… 33
【X8029】キャリアデザイン学演習Ⅰ［佐藤　恵］春学期授業/Spring…… 35
【X8030】キャリアデザイン学演習Ⅰ［仲田　康一］春学期授業/Spring…… 36
【X8031】キャリアデザイン学演習Ⅰ［武石　恵美子］春学期授業/Spring…… 37
【X8032】キャリアデザイン学演習Ⅰ［田澤　実］春学期授業/Spring…… 38
【X8033】キャリアデザイン学演習Ⅰ［田中　研之輔］春学期授業/Spring…… 39
【X8034】キャリアデザイン学演習Ⅰ［筒井　美紀］春学期授業/Spring…… 40
【X8035】キャリアデザイン学演習Ⅰ［松浦　民恵］春学期授業/Spring…… 41
【X8036】キャリアデザイン学演習Ⅰ［廣川　進］春学期授業/Spring…… 42
【X8037】キャリアデザイン学演習Ⅰ［安田　節之］春学期授業/Spring…… 43
【X8038】キャリアデザイン学演習Ⅰ［熊谷　智博］春学期授業/Spring…… 44
【X8041】キャリアデザイン学演習Ⅱ［上西　充子］秋学期授業/Fall…… 45
【X8042】キャリアデザイン学演習Ⅱ［梅崎　修］秋学期授業/Fall…… 46
【X8043】キャリアデザイン学演習Ⅱ［木村　琢磨］秋学期授業/Fall…… 47
【X8044】キャリアデザイン学演習Ⅱ［児美川　孝一郎］秋学期授業/Fall…… 48
【X8045】キャリアデザイン学演習Ⅱ［齋藤　嘉孝］秋学期授業/Fall…… 49
【X8046】キャリアデザイン学演習Ⅱ［坂爪　洋美］秋学期授業/Fall…… 50
【X8047】キャリアデザイン学演習Ⅱ［久井　英輔］秋学期授業/Fall…… 51
【X8048】キャリアデザイン学演習Ⅱ［佐藤　厚］秋学期授業/Fall…… 53
【X8049】キャリアデザイン学演習Ⅱ［佐藤　恵］秋学期授業/Fall…… 54

【X8050】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［仲田　康一］秋学期授業/Fall 55
【X8051】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［武石　恵美子］秋学期授業/Fall 56
【X8052】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［田澤　実］秋学期授業/Fall 57
【X8053】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［田中　研之輔］秋学期授業/Fall 58
【X8054】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［筒井　美紀］秋学期授業/Fall 59
【X8055】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［松浦　民恵］秋学期授業/Fall 60
【X8056】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［廣川　進］秋学期授業/Fall 61
【X8057】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［安田　節之］秋学期授業/Fall 62
【X8058】キャリアデザイン学演習Ⅱ ［熊谷　智博］秋学期授業/Fall 63
【X8059】キャリアデザイン学演習Ⅰ（代表シラバス）［廣川　進］春学期授業/Spring 64
【X8060】キャリアデザイン学演習Ⅱ（代表シラバス）［廣川　進］秋学期授業/Fall 65

SOC500M1 － 1101

キャリア調査研究法基礎

熊谷　智博

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
調査研究の方法に関する知識を身につけることによって、社会現象を単なる主観的に判断するのでは無く、客観的なデータから問題を理解するスキルを修得することを本講義の目的としています。具体的に心理学の研究をベースとして、量的、質的研究とはなにか、科学的研究法がなぜ必要かについての理解を目指します。

【到達目標】
授業においては、量的／質的な調査・分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。本講義での学びを通し、各自が関心を持つ研究対象について、具体的に研究としての形にするにはどうしたらよいか、量的／質的調査の方法を適用し、量的／質的な分析を行うという点から行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に 2 コマ連続で、7 週開講となります。基本的には対面授業を予定しておりますが、感染状況によっては Zoom を利用したリアルタイム型オンライン授業への変更の可能性もあります。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概略・方法
第 2 回	授業の実施方法について	授業運営方法についての説明と練習
第 3 回	科学と実証	「科学的」とは何かについて解説
第 4 回	実験と観察	科学的研究法の代表である実験と観察について解説
第 5 回	実証の手続き	科学的研究の実施方法について解説
第 6 回	調査法	調査法の特徴について解説
第 7 回	観察法	観察法の特徴について解説
第 8 回	面接法	構造化面接、非構造化面接、半構造化面接
第 9 回	研究の実施と解釈、報告	研究実施の際の注意点、結果の解釈研究結果の報告、特に論文執筆と学会発表の仕方について解説。
第 10 回	研究活動の基本的特質	研究活動の本質と社会的性格について解説。
第 11 回	問題発見と主題設定	研究テーマに関する問題発見の仕方と主題設定について解説。
第 12 回	術語と定義	研究活動を支える術語と定義の意味と利用方法について解説。
第 13 回	仮説と法則	仮説の意義と機能、形成の方略、法則について解説。
第 14 回	理論	理論の意義と理論構築とは何かについて解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象やテーマに関するアイディアを錬り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていってください。また調査法は授業で得た知識を積み上げていくことが必要となりますので、復習をしっかり行って次回の授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（30 %）、平常点（80 %）。

【学生の意見等からの気づき】
少人数授業の利点を活かし、学生からの質問に対する回答に時間を割き、それを通じてより深い理解へと繋げます。

【学生が準備すべき機器他】
タブレットやスマートフォンでも構いませんが Excel を利用出来るようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】
2023 年度の開講スケジュールは以下の予定です。
第１・２回： 4 月 8 日
第３・４回： 4 月 15 日
第５・６回： 4 月 22 日
第７・８回： 5 月 6 日
第９・10 回： 5 月 13 日
第 11・12 回： 5 月 20 日
第 13・14 回：5 月 27 日
＊例年は隔週開講でしたが、本年度より 7 週連続となりました。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。
＜研究テーマ＞
集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。
＜主要研究業績＞
熊谷智博 (2016). 第 15 章：集団間紛争とその解決および和解　大渕憲一監修　紛争・暴力・公正の心理学　北大路書房　pp.192-203.
熊谷智博（2014）. 第 9 章：集団の中の個人、第 10 章：集団間関係. 脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著　基礎からまなぶ社会心理学　サイエンス社　pp.153-192.
熊谷智博（2013）. 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討　社会心理学研究, 29, 2. 86-93.
熊谷智博・大渕憲一　監訳（2012）紛争と平和構築の社会心理学:集団間の葛藤とその解決　北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline (in English)】
Students will learn introduction of social science, either form qualitative and quantitative approach.
Goals of this course are that students understand scientific way of study(either qualitatively or quantitatively), and become to write master thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 50%, Short reports and in class contribution: 50%

SOC500M1 － 1102

量的調査法

齋藤　嘉孝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
量的調査によって得られたローデータを分析するのに必要な知識や技能を学ぶ。

【到達目標】
量的調査によって得られたローデータを分析するには専門的な知識や技能が存在するが（例えば、クロス表分析、分散分析、回帰分析、等）、それらを使って量的分析ができるようになること。また、実際の二次分析データを用いることによって、統計ソフトの使い方を体得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
量的調査は、様々な研究を進めるうえで非常に有効な方法である。この授業では、春学期科目「キャリア調査研究法」で学んだことを発展させ、実際に統計ソフト（エクセルを予定）を履修者が操作すること等により、量的調査分析の手法を修得していく。また、修士論文の作成にむけて、履修者各自の調査デザインをもとに実践的分析を進めていく。学期を通してオンラインでの実施とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	量的調査の概要
2	データ入力①	統計ソフトへの入力方法
3	データ入力②	データクリーニング等
4	記述統計	平均・標準偏差等
5	統計分析①	クロス表分析
6	統計分析②	クロス表分析
7	統計分析③	クロス表分析
8	統計分析④	分散分析
9	統計分析⑤	分散分析
10	統計分析⑥	分散分析
11	統計分析⑦	重回帰分析等
12	統計分析⑧	重回帰分析等
13	統計分析⑨	統計的有意
14	分析結果の報告	分析結果の報告およびディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・春学期科目「キャリア調査研究法基礎」を履修しておくこと。
・毎回指示される課題を遂行すること（文献講読、データ分析、報告書執筆、等）。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ワードマップ社会福祉調査』（斎藤嘉孝、2010 年、新曜社）

【参考書】
授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
各回提出物 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
常に実践的な内容を心がけている。理論的なことだけでなく、修士論文に実際に使える知識・技能を会得してほしいと考えている。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会学、社会調査
＜研究テーマ＞
私的生活領域やそれを取り巻く社会環境を人生スパンで対象とする実証的研究や、それに関連する諸政策・制度。
＜主要研究業績＞
『ワードマップ社会福祉調査』（2010 年、新曜社）、『親になれない親たち』（2009 年、新曜社）、”An Empirical Study of the Frequency of Intergenerational Contacts of Family Members in Japan,” Journal of Intergenerational Relationships 7(1)（2009 年、共著）

【Outline (in English)】
Learn knowledge and skills necessary for analyses of raw data that were collected by quantitative methods. Learning objective of this course is to get knowledge and skills of quantitative methods. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of small reports 50% and final report 50%.

SOC500M1 － 1103

質的調査法

佐藤　恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。
社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。
本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、質的調査・質的分析の諸方法について学びます。

【到達目標】
授業においては、まず、質的調査・質的分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。
その上で、調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。本講義での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、質的な分析を行うことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。
オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業ですが、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等も積極的に取り入れていきます。
１つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。
各テーマを深く掘り下げることを通して、質的調査法についての理解・定着を図ります。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
第 2 回	社会調査と社会認識、調査倫理（1）	社会科学における予言と観察の問題
第 3 回	社会調査と社会認識、調査倫理（2）	社会調査における倫理問題
第 4 回	インタビュー法（1）	構造化面接
第 5 回	インタビュー法（2）	非構造化面接、半構造化面接
第 6 回	インタビュー法（3）	インタビュー法実習
第 7 回	観察法（1）	統制的観察、非統制的観察（非参与観察）
第 8 回	観察法（2）	非統制的観察（参与観察）
第 9 回	ライフストーリー法	ライフストーリー・インタビュー
第 10 回	調査データの読解	調査データ読解上の注意
第 11 回	質的データの分析法（1）	ＫＪ法
第 12 回	質的データの分析法（2）	グラウンデッド・セオリー・アプローチ
第 13 回	質的データの分析法（3）	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、漸次構造化法
第 14 回	まとめ・総括	質的調査のメリット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象やテーマに関するアイディアを錬り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていってください。
もう一つ、準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、１回１回の授業から質的調査に関する視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
提出課題（５０％）、平常点（５０％）。
提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。
平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
社会学（地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学）、社会調査（質的調査）。
＜最近の研究テーマ＞
支援の社会学（犯罪被害者支援、障害者支援、震災復興支援、ボランティア／ＮＰＯ、ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ）。
＜主要研究業績＞
①『支援と物語（ナラティヴ）の社会学―非行からの離脱、精神疾患、小児科医、高次脳機能障害、自死遺族の体験の語りをめぐって』（共編、生活書院、2020 年）
②「生きづらさを生き埋めにする社会――犯罪被害者遺族・自死遺族を事例として」（共著、『社会学評論』66(4)、2016 年）
③『大震災の生存学』（共著、青弓社、2015 年）
④『ピア・サポートの社会学―ＡＬＳ、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聴く』（共著、晃洋書房、2013 年）
⑤『自立と支援の社会学―阪神大震災とボランティア』（単著、東信堂、2010 年）
⑥『〈支援〉の社会学―現場に向き合う思考』（共編著、青弓社、2008 年）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Social Research refers to the process and methods of recognizing and understanding a social phenomenon by collecting data from the actual world and analyzing them.
Understanding of the social reality through social researches helps us see hitherto unnoticed matters and expand our knowledge.
Among various social research methods, this class focuses on “qualitative research,” which is independent of statistical calculations and figures, to cover various qualitative survey and analysis methods.
（Learning Objectives）
This course introduces the basic learning of various qualitative survey and analysis methods to understand and explain them. The aim of this course is to help you do a qualitative analysis with the use of qualitative survey methods by yourselves.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to assemble the considerations for the surveyed objects and topics with gleaning literature.
It is also important to prepare the next lecture with the deep understandings of qualitative survey consistently after each class meeting.
Your required study time is at least two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Assignment: 50%,in class contribution: 50%

PSY500M1 － 1201

生涯発達心理学

岡田　昌毅

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

【到達目標】
キャリア関連の諸理論・アプローチを実践場面に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリア心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用について個人またはグループ毎に整理し、各自２つの課題に関する発表を行っていただく。発表会においてディスカッション、および課題に対する講評や解説を行う。
本科目は対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、Zoom を用いたオンライン授業となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	授業の進め方に関して説明する。
第 2 回	ｷｬﾘｱ関連理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁ概説Ⅰ	本授業で取り扱うｷｬﾘｱ関連理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁについて概説する。（前半）
第 3 回	ｷｬﾘｱ関連理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁ概説Ⅱ	本授業で取り扱うｷｬﾘｱ関連理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁについて概説する。（後半）
第 4 回	ｷｬﾘｱｲﾝﾀﾋﾞｭｰⅠ	ｷｬﾘｱｲﾝﾀﾋﾞｭｰの準備と実施。（前半）
第 5 回	ｷｬﾘｱｲﾝﾀﾋﾞｭｰⅡ	ｷｬﾘｱｲﾝﾀﾋﾞｭｰの準備と実施。（後半）
第 6 回	ｷｬﾘｱ概要把握Ⅰ	ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ結果に基づきﾗｲﾌﾗｲﾝを作成する。
第 7 回	追加ｲﾝﾀﾋﾞｭｰⅠ	追加ｲﾝﾀﾋﾞｭｰを実施する。（前半）
第 8 回	追加ｲﾝﾀﾋﾞｭｰⅡ	追加ｲﾝﾀﾋﾞｭｰを実施する。（後半）
第 9 回	ｷｬﾘｱ概要把握Ⅱ	ﾗｲﾌﾗｲﾝを完成させ、ｷｬﾘｱ概要把握を完了する。
第 10 回	職業選択と適性Ⅰ	ﾎﾗﾝﾄﾞに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 11 回	職業選択と適性Ⅱ	【VPI 職業興味検査実習】
第 12 回	ｷｬﾘｱ発達論	ｽｰﾊﾟｰのｷｬﾘｱ自己概念、ﾗｲﾌｷｬﾘｱﾚｲﾝﾎﾞｰ、ｷｬﾘｱ発達段階に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 13 回	ｷｬﾘｱ構築論	ｻﾋﾞｶｽに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 14 回	働く動機	ﾏｽﾞﾛｰの欲求 5 段階説、その他ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝ論に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 15 回	組織内ｷｬﾘｱ発達Ⅰ	ｼｬｲﾝのｷｬﾘｱ・ｱﾝｶｰ、組織の 3 次元ﾓﾃﾞﾙ等に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 16 回	組織内ｷｬﾘｱ発達Ⅱ	【ｷｬﾘｱ・ｱﾝｶｰ診断実習】
第 17 回	ｷｬﾘｱ・ﾌﾟﾗﾄｰ	山本寛のｷｬﾘｱ・ﾌﾟﾗﾄｰに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 18 回	ｷｬﾘｱ意思決定における社会的学習理論	ﾊﾞﾝﾃﾞｭｰﾗのｾﾙﾌｴﾌｨｶｼｰ、社会的学習理論およびｸﾙﾝﾎﾞﾙﾂのｷｬﾘｱ意思決定、計画された偶発性に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 19 回	ｷｬﾘｱ意思決定	ｼﾞｪﾗｯﾄの意思決定ﾌﾟﾛｾｽに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 20 回	関係性ｱﾌﾟﾛｰﾁ	ﾎｰﾙのﾌﾟﾛﾃｨｱﾝ・ｷｬﾘｱに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 21 回	統合的ｷｬﾘｱ発達	ﾊﾝｾﾝの統合的ｷｬﾘｱ発達に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 22 回	ﾄﾗﾝｼﾞｼｮﾝ論〔出来事の視点〕	ｼｭﾛｽﾊﾞｰｸﾞの出来事としての転機に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 23 回	ﾄﾗﾝｼﾞｼｮﾝ論〔発達の視点〕	ﾌﾞﾘｯｼﾞｽﾞの発達段階としてのﾄﾗﾝｼﾞｼｮﾝに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 24 回	ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨのらせん式発達ﾓﾃﾞﾙ	ｴﾘｸｿﾝ、ﾏｰｼｬ、岡本祐子に関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 25 回	ｷｬﾘｱ・ｽﾄﾚｽとﾜｰｸ・ﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽ	金井篤子の職務ｽﾄﾚｽ、ｷｬﾘｱ・ｽﾄﾚｽ、ﾜｰｸ・ﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽに関する課題発表とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ
第 26 回	事例発表	個別にインタビューした事例にｷｬﾘｱ理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁを適用して発表する。
第 27 回	総合討論	あるテーマにｷｬﾘｱ理論・ｱﾌﾟﾛｰﾁを適用し、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議、および全体で共有する。
第 28 回	総括	授業を総括する。（仕事、職業ｷｬﾘｱ発達と心理・社会的発達に関する岡田のﾓﾃﾞﾙ他）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当テーマの発表準備。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
渡辺三枝子編著　2018　「新版キャリアの心理学［第２版］」　ナカニシヤ出版
岡田昌毅著　2013　「働くひとの心理学－働くこと、キャリアを発達させること、そして生涯発達すること－」　ナカニシヤ出版

【参考書】
その他　講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

【成績評価の方法と基準】
テーマ発表（２回）【必須】（８０％）。
授業への貢献（２０％）。
なお、担当テーマは授業の中で決定する。

【学生の意見等からの気づき】
社会人大学院生のニーズに応えられるよう継続的に工夫をいたします。

【学生が準備すべき機器他】
ＩＣレコーダーをお持ちの方は初回授業時に持参してください。

【その他の重要事項】
授業は 6 月初旬～8 月初の日曜集中で実施します。
初回授業においてそれ以降の授業で必要となるキャリア・インタビューを実施しますので、必ず出席してください。
授業日程・時間帯等が変則的ですので、ご注意ください。
なお、授業内容や順番など一部変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
キャリア心理学、キャリア・カウンセリング
＜研究テーマ＞
・仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究
・キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ
＜主要研究業績＞
・岡田昌毅・金井篤子：仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とプロセスの検討 －企業における成人発達に焦点をあてて－．産業・組織心理学研究，20，51-62，2006
・堀内泰利・岡田昌毅：キャリア自律が組織コミットメントに与える影響．産業・組織心理学研究，23，15-28，2009
・高橋南海子・岡田昌毅：就職活動による自己成長感の探索的検討，産業・組織心理学研究，26，121-138，2013
・原恵子・小玉正博・岡田昌毅：中堅キャリア支援者における職業的発達プロセスに関する探索的研究，キャリアデザイン研究，9，49-63，2013
・菊入みゆき・岡田昌毅：職場における同僚間の達成動機の伝播に関する研究，産業・組織心理学研究，27，101-116，2014
・正木澄江・岡田昌毅：企業従業員の働くことの意味醸成プロセスに関する探索的検討，産業・組織心理学研究，28，43-57，2014
・中村准子・岡田昌毅：企業で働く人の職業生活における心理的居場所感に関する研究，産業・組織心理学研究，30，3-16，2016
・須藤章・岡田昌毅：役職定年者の会社に留まるキャリア選択と組織内再適応プロセスの探索的検討，産業・組織心理学研究，32，15-30，2018
・持田聖子・岡田昌毅：企業内ワーキングマザーの仕事と家庭の両立方略と働き方の変容プロセス，産業・組織心理学研究，34，147-163，2021
・平林工志・岡田昌毅：児童養護施設利用者の心理的自立に至るプロセスと指導員による支援の関連性についての探索的研究，キャリア・カウンセリング研究，23，1-14，2021

【Outline (in English)】
〈Course outline〉
In order for career counselors to provide appropriate support to their clients, it is desirable for them to approach the problems and issues faced by their clients from a variety of perspectives. By learning a wide range of career-related theories and approaches, students will understand the relationships and differences between them and acquire a foundation for applying them in practice.
〈Learning Objectives〉
To be able to apply various career-related theories and approaches to practical situations.
〈Learning activities outside of classroom〉
Preparation for presentation of assigned topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
〈Grading Criteria /Policy〉
Presentation of the theme (2 times) [Required] (80%)
Contribution to the class (20%).
The theme will be decided during the class.

PSY500M1 － 1202

教育心理学

田澤　実、輕部　雄輝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に【発達】【パーソナリティ・心理尺度】【学習理論】【認知・臨床】を学ぶ。これらは教育心理学の伝統的なテーマでもあり、キャリアとの関連性が深い特徴がある。

【到達目標】
・自らの関心テーマについて「学び」という観点から捉えることができる。
・他者の学びを支援する際に、教育心理学の専門的な知識を踏まえた工夫ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と授業内での発表。課題等の提出後に授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の内容について説明をする。
第 2 回	教育心理学の近年の動向	教育心理学における近年の動向と授業で扱うテーマの関連を説明する。
第 3 回	教育心理学における質的研究（1）	教育心理学における質的研究の例を説明する。
第 4 回	教育心理学における質的研究（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 5 回	教育心理学における量的研究（1）	教育心理学における量的研究の例を説明する。
第 6 回	教育心理学における量的研究（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 7 回	ソーシャルサポート（1）	ソーシャルサポート研究の流れを説明する。
第 8 回	ソーシャルサポート（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 9 回	動機づけ（1）	内発的動機づけ、外発的動機づけ等を説明する。
第 10 回	動機づけ（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 11 回	自己効力（1）	Bandura の社会的学習理論について説明する。
第 12 回	自己効力（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 13 回	セルフ・コンパッション（1）	セルフ・コンパッション研究の流れを説明する。
第 14 回	セルフ・コンパッション（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 15 回	レポート中間発表	受講者による発表。自らの関心テーマについて「学び」という観点からまとめる。質疑応答を行い、今後の方針を考える。
第 16 回	キャリア意識の効果測定（1）	大学におけるキャリア意識の発達に関する効果測定テスト（CAVT）の活用の例を説明する。
第 17 回	キャリア意識の効果測定（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 18 回	時間的展望（1）	個人が過去を振り返ったり、将来を見通したりすることについての心理学的な見解を紹介する。
第 19 回	時間的展望（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 20 回	性格の測定	教育心理学に関連した研究でよく用いられる性格テストを体験する。。
第 21 回	学習と教授法	学習理論に基づいた指導法を扱う。
第 22 回	ワークショップによる学び	ワークショップを理解するための学習理論を説明する。
第 23 回	経験学習	Kolb の経験学習を説明する。
第 24 回	発達障害（1）	発達障害者の学習場面および就労場面においてはどのような困難が生じやすいのか説明する。
第 25 回	発達障害（2）	受講者による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 26 回	レポート進捗発表（1）	各自、中間発表での指摘を受けて、レポートの完成を目指して最後の発表をする。
第 27 回	レポート進捗発表（2）	レポートの完成を目指して最後の発表をする。質疑応答を踏まえて、レポートの構成の方向性を固める。
第 28 回	レポートのフィードバック	最終レポートの返却と解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を事前に配布する。受講生にレジュメ発表を求める回もある。レジュメ発表の回数は受講者人数に合わせて調整する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
梅崎修・田澤実 2013 『大学生の「学び」とキャリア』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、レポート 60%にて評価。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は教員が 2 名体制である。それに伴い、シラバスを大幅変更した。なお、今年度も、受講者に進行案を示し、意見を交わして、進め方の調整をしていく。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
受講者の人数によって、シラバスは変更することがある。また、受講者の関心にあわせて、扱う関連論文を変更することもある。初回の授業でその調整の仕方について説明する。

【Outline (in English)】
This syllabus outlines a course that introduces students to mental and physical development characteristics and the basic principles of learning theory. Upon completion of the course, students should be able to:
Acquire specialized knowledge in educational psychology that can be used to support the learning of others.
Explain their areas of interest from the perspective of learning.
Students are required to complete assignments after each class meeting. They should anticipate spending more than four hours per week on coursework. Grades will be determined based on reports (60%) and in-class contributions (40%).

PSY500M1 － 1203

産業・組織心理学

坂爪　洋美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業・組織心理学は、人々が働くことを通じて経験する現象を心理学的視点から理解しようとする学問領域です。例えば「こんな（低い）評価をあんな上司がつけたのかと思うとやる気にならない」という私達がどこかで経験する現象は、公平性・リーダーシップ・モチベーションといった概念で説明することができます。本授業では、このような産業・組織心理学の主要な概念について理解することを目的とします。授業では、人を人材として活用しようとする組織（主として企業）の観点と、より良く働こうとする個人（何を「良い」と考えるかは多岐に渡ります）の観点双方を意識し、各トピックについてレクチャーならびに議論していきます。

【到達目標】
授業の到達目標は以下のとおりです。
①授業計画の部分で提示する産業・組織心理学の主要な概念を用いて、職場でおきている様々な現象を説明できるようになること
②産業・組織心理学の主要な概念をもちいた心理学系の論文を読みこなすことができるようになること
③修士論文作成を視野に入れた上で、産業・組織心理学の主要な概念をもちいて、自ら仮説の提示をできるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業実施形態は、初回のオリエンテーションで受講者と相談の上決定します。なお、初回のオリエンテーションは、対面で行います。初回のオリエンテーションで担当論文の決定等を行いますので、必ず出席してください。
各回の授業は、前半に講義・後半がディスカッションもしくは論文の輪読となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
授業内容に対する質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に、授業終了後に寄せられた質問に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション①	授業の内容ならびに進め方を紹介する。
第 2 回	授業オリエンテーション②	心理学というパースペクティブに基づく物事の捉え方について説明した上で、受講生の問題意識をお互いに紹介する。
第 3 回	モチベーション①	モチベーションの基本的な理論についてレクチャーする。
第 4 回	モチベーション②	モチベーションの関連文献についてディスカッションを行う。
第 5 回	リーダーシップ①	リーダーシップの基本的な理論についてレクチャーする。
第 6 回	リーダーシップ②	リーダーシップの関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 7 回	公平性①	評価をめぐって議論となる公平性についてレクチャーする。
第 8 回	公平性②	公平性の関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 9 回	職場の力①	個人と組織の中間に位置する職場について、レクチャーを行う。
第 10 回	職場の力②	職場に関する文献を元にディスカッションを行う。
第 11 回	経験学習①	能力開発の中心となる仕事経験について、レクチャーを行う。
第 12 回	経験学習②	能力開発の関連文献を元にディスカッションを行う。
第 13 回	キャリアの主要概念①	キャリアの主要な概念について概観する。
第 14 回	キャリアの主要概念②	キャリアの主要文献を読み、ディスカッションを行う。
第 15 回	キャリアの転機①	キャリアの転機の１つである転職ならびに失業についてレクチャーを行う。
第 16 回	キャリアの転機②	転職ならびに失業についての心理学的観点からの論文を読み、ディスカッションを行う。
第 17 回	組織コミットメント①	組織と個人の関係性を示す概念である組織コミットメントについてレクチャーする。
第 18 回	組織コミットメント②	組織コミットメントに関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第 19 回	働きがいと働きやすさ①	学問的には定義が曖昧であるが、近年取り上げられることの多い２つの概念の関連文献について講義を行う。
第 20 回	働きがいと働きやすさ②	働きがい・働きやすさいの関連文献を読み、ディスカッションを行う。
第 21 回	ダイバーシティ・マネジメント①	ダイバーシティに関する基本的な考え方についてレクチャーを行う。
第 22 回	ダイバーシティ・マネジメント②	ダイバーシティ・マネジメントに関する論文を読み、ディスカッションを行う。
第 23 回	ワーク・ライフ・バランス①	ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、レクチャーを行う。
第 24 回	ワーク・ライフ・バランス②	ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、心理学的観点からの論文を読みディスカッションを行う。
第 25 回	組織風土①	組織風土としての心理的安全性についてレクチャーを行う。
第 26 回	組織風土②	心理的安全性に関する論文を読み、ディスカションを行う。
第 27 回	最終レポート検討会①	最終レポートについてのディスカションを行う
第 28 回	最終レポート検討会②	最終レポートについてのディスカションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定文献については、受講者全員が事前に読んだ上で出席することを求めます。また、指定文献のレジュメ作成を受講者で分担します。これとは別にレポート提出を求めます（レポートの内容については初回の授業で説明します）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しません

【参考書】
授業内で適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】
担当するレジュメ　30 %
期末に提出するレポート　70%

【学生の意見等からの気づき】
指定文献ならびに課題の難易度に幅を持たせることで、様々な学生のニーズに対応できるようにします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業・組織心理学　人材マネジメント
＜研究テーマ＞
ダイバーシティ・マネジメント　ならびに　ワーク・ライフ・バランス
＜主要研究業績＞
佐藤博樹・武石恵美子・坂爪洋美（２０２２）『多様な人材のマネジメント』中央経済社.
坂爪洋美・高村静（２０２０）『シリーズダイバーシティ経営　管理職の役割』中央経済社.
坂爪洋美（2016）「大学生の組織選好度の推移：2004 年から 2016 年までの変化」生涯学習とキャリアデザイン，3-19.
坂爪洋美（2015）「管理職がいだく育児を理由とした短時間勤務制度利用者のキャリア展望：その影響と規定要因の検討」生涯学習とキャリアデザイン，61-76.
坂爪洋美（2014）「大学生のキャリア・オリエンテーションの変化： 2004 年～2012 年のデータを用いた分析」和光大学現代人間学部紀要, 7, 195-214.
坂爪洋美 (2014)「職業紹介担当者の能力ならびにスキル：ハイ・パフォーマーの特徴を明らかにする」『人材サービス産業の新しい役割』，有斐閣.
坂爪洋美（2012）「多様な人材の活躍を可能にするワーク・ライフ・バランス」『＜先取り志向＞の組織心理学』，有斐閣

【Outline (in English)】
This course will provide an Introduction to Industrial and Organizational Psychology, a scientific discipline that studies human behavior in the workplace.The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of Industrial and Organizational Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of Industrial and Organizational psychology.

PSY500M1 － 1204

キャリアカウンセリング論

廣川　進、高橋　浩

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストによるカウンセリングの理論の理解と、事例検討によるキャリアカウンセリングによるキャリア開発、キャリア形成支援のありかたを具体的に事例を交えて深く学ぶ。実習中心のワークを取り入れてカウンセリング技術の向上も図る。

【到達目標】
キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的理解、心理学による人間行動の基本的理解、コミュニティ心理学における「人と環境の適合」についての基本的理解、カウンセリングの機能とその役割を理解し、それぞれ必要とされる場面において適切なクライエント理解とその支援ができるカウンセリング力を学生が身に付けることを目標とする。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) understand of counseling required for career counseling,
2) understand of human behavior through psychology,
３) understand of human-emvironment fit in community psychology.
４) understand of functions and roles of career counseling
５） acquire counseling skills to understand and support clients appropriately

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
前半の授業を廣川 進、後半の授業を高橋 浩が担当する。
キャリアカウンセリングの理論的理解を基礎として、その応用となる事例の理解を合わせて行ないながら、実践的な側面からもキャリアカウンセリングを理解する。講義とそれに関する課題の討議、また、講義にそって、キャリアカウンセリングの事例の検討、討議を行ない、実践的事例を通して、実践的な力も合わせてつける。ロールプレイなどの実習も取り入れて、ワンランク上のカウンセリング技術の習得めざす。
授業の形式は以下の２つのパターンからなる。A）テキストを受講生が分担してレジュメを作り発表し討議する。B）受講生が提供する事例をもとに事例検討する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対 してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	キャリアカウンセリングとは何か。その定義と機能、役割。	現代社会で求められるキャリアカウンセリングのニーズに適正に応えることができるためには、キャリアカウンセリング、キャリアカウンセラーはどうあるべきか。その定義と役割・機能について学ぶ
2.	１、のテーマに関して討議を行なう。	現在のキャリアカウンセリングの課題、キャリアコンサルタント資格の課題、あるべき姿などについて討議する。
3.	カウンセリングとは何か、その機能と役割ー①	キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶー①
4.	３のテーマに関して討議を行うー①	カウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なうー①
5.	カウンセリングとは何か、その機能と役割ー②	キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶ-②
6	５のテーマに関して討議を行うー②	カウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なうー②
7	人間行動の理解と基礎心理学ー①	クライエントの行動を理解するためには、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶー①
8.	７のテーマに関して討議を行うー②	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライエント理解について討議する
9.	人間行動の理解と基礎心理学ー②	クライエントの行動を理解するためには、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶー②
10	９のテーマに関して討議を行うー②	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライエント理解について討議する
11	キャリアカウンセリング理論ー①	キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ-①
12	11 のテーマに関して討議を行なうー①	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう-①
13	キャリアカウンセリング理論ー②	キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ-②
14	12 のテーマに関して討議を行なうー②	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう-②
15	コミュニティ心理学	コミュニティ心理学についての基本的発想とアプローチ方法について理解し、キャリアカウンセリングとの関連について学ぶ
16	15 のテーマに関して討議を行う	コミュニティ心理学を用いたキャリアカウンセリングの活用方法、発展方法について学ぶ
17	組織・企業におけるコミュニ心理学を活用したキャリア支援のあり方	組織・企業において、従業員のキャリア開発やキャリア形成を効果的に行うためのキャリアカウンセリングのあり方とコミュニティ心理学の活用方法について学ぶ
18	17 のテーマに関して討議を行う	組織・企業におけるキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げて、討議し事例検討する。
19	学校におけるコミュニ心理学を活用したキャリア支援のあり方	学校における、キャリア教育やキャリアガイダンス、就職支援などを効果的に行うためのキャリアカウンセリングのあり方とコミュニティ心理学の活用方法について学ぶ
20	19 のテーマに関して討議を行う	学校におけるキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げて、討議し事例検討する。
21	メンタルヘルスに関わるキャリア支援とコミュニ心理学の活用	メンタルヘルス不調者に対するキャリア支援を効果的に行うためのキャリアカウンセリングのあり方とコミュニティ心理学の活用方法について学ぶ
22	21 のテーマに関して討議を行う	メンタルヘルス不調者に対するキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げて、討議し事例検討する。
23	発達障害に関わるキャリア支援とコミュニ心理学の活用	発達障害者およびその疑いのある者に対するキャリア支援を効果的に行うためのキャリアカウンセリングのあり方とコミュニティ心理学の活用方法について学ぶ
24	23 のテーマに関して討議を行う	発達障害者およびその疑いのある者に対するキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げて、討議し事例検討する。
25	ダイバーシティに関わるキャリア支援とコミュニティ心理学の活用	女性・高齢者・性的マイノリティなどの者に対するキャリア支援を効果的に行うためのキャリアカウンセリングのあり方とコミュニティ心理学の活用方法について学ぶ
26	25 のテーマに関して討議を行う	マイノリティに対するキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げて、討議し事例検討する。
27	キャリアカウンセリングの統合的アプローチ	多様なキャリア理論、カウンセリング理論、コミュニティ心理学を統合したアプローチについて学ぶ
28	27 のテーマに関して討議を行う	多様なキャリアカウンセリング／コミュニティ心理学を統合した事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身近なキャリアカウンセリングの具体的な事例を収集して、事例検討の場に活用できるように準備をする。（個人情報のとり扱いに注意）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
What is required of students is to collect familiar career counseling case studies and be prepared to use them in case studies.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】
〇廣川
「ナラティブ・セラピーのダイアログ他者と紡ぐ治療的な会話、その＜言語＞を求めて」国重浩一、横山克貴（北大路書房）
「協働するカウンセリングと心理療法　文化とナラティブをめぐる臨床実践テキスト」デヴィッド・パレ著　能智正博監訳　（新曜社）
「ブリーフセラピーの極意」森俊夫　（ほんの森出版）
〇高橋
「よくわかるコミュニティ心理学［第３版］」植村勝彦ら　ミネルヴァ書房

【参考書】
「現場で使えるキャリア理論とモデル」ナンシー・アーサー著　水野修次郎監訳　（金子書房）
「新版キャリアの心理学　キャリア支援への発達的アプローチ」　渡辺三枝子（ナカニシヤ出版）「新時代のキャリアコンサルティング　キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」（労働政策研究・研修機構）
「多様化する「キャリア」をめぐる心理臨床からのアプローチ」長尾博　ミネルヴァ書房
「社会正義のキャリア支援」下村英雄　図書文化
キャリアコンサルタントのためのカウンセリング入門　杉原保史　北大路書房
「キャリアカウンセリング」宮城まり子駿河台出版社
「セルフ・キャリアドック入門」　高橋浩　金子書房
「システムズアプローチ入門: 人間関係を扱うアプローチのコミュニケーションの読み解き方」中野 真也・吉川 悟　ナカニシヤ出版
「キャリアを超えて　ワークング心理学　働くことへの心理学的アプローチ」DL ブルステイン　（白桃書房）
授業中に適宜文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
討論への参加状況 (４０ %)
提出課題 (６０%)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 60%、and in class contribution: 40%

【学生の意見等からの気づき】
事例検討は長時間にわたって受講者の負担が大きくならないように留意する。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【担当教員の専門分野等】
廣川 進：
臨床心理学、生涯発達心理学、キャリア心理学とキャリアカウンセリング
産業心理学を専門とする
高橋浩：
キャリア心理学、カウンセリング心理学、産業・組織心理学、コミュニティ心理学

【Outline (in English)】
We study the theory of career counseling and career development. We can practically learn through case studies

SOC500M1 － 1205

コミュニティとキャリア

田中　研之輔、安田　節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コミュニティとキャリアに関する①理論的視座を多面的・経験的に習得した上で、②実践的視座を組織エスノグラフィーとプログラム評価の観点から理解し、調査・研究のデザインの方法を学びます。

前半の第 1 回～第 14 回（担当：田中）では、コミュニティを考える上で重要な視点となる「(社会・物質) 空間」と「(社会) 集団」への見識を深め、この空間的視座と集団論的視座を交錯させながら、組織エスノグラフィーの視点から実践的に検討します。

また後半の第 15 回から第 28 回（担当：安田）では，企業組織・教育機関・地域コミュニティで実施されるキャリア支援や人材育成・組織開発をプログラムの視点から構造化し、その効果や成果をデータに基づいて構造化し、その効果や成果をデータに基づいて評価し、活動の質向上につなげるための方法論であるプログラム評価について学びます。

【到達目標】

①コミュニティとキャリアに関する理論的視座の包括的理解と具体的事例の洞察的分析をできるようにする。
②コミュニティとキャリアに関する実践的視座を『組織エスノグラフィー』と『プログラム評価』の観点から理解し，実践研究の設計・デザインを行うことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、各回において、「理論」と「経験的事例」とを相互に行き来しながら検討を進めていきます。各回ともに、前半は理論的視座および実践的視座について解説を加えていきます。後半はコミュニティとキャリアに関する具体的な問題をとりあげ、ディスカッション形式を適宜取り入れながら理解を深めていきます。受講生は課題論文を読み込み、議論に積極的に参加して頂きます。フィードバックは、リアクションペーパーと課題への全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	組織エスノグラフィーにおけるコミュニティとキャリア：	組織エスノグラフィーという手法をも用いてコミュニティとキャリアを考察する理論的視座の導入的理解をすすめる。
第 2 回	組織エスノグラフィーの学問的系譜	組織エスノグラフィーの学問的系譜を整理する。
第 3 回	組織エスノグラフィーの集団分析	組織エスノグラフィーの集団分析について見識を深める。
第 4 回	組織エスノグラフィーの空間分析	組織エスノグラフィーの空間分析について見識を深める。
第 5 回	組織エスノグラフィーのキャリア分析	組織エスノグラフィーのキャリア分析について見識を深める
第 6 回	組織エスノグラフィーの関係分析	組織エスノグラフィーの関係分析について見識を深める
第 7 回	組織エスノグラフィーの方法論	組織エスノグラフィーの方法論を習得する。
第 8 回	組織エスノグラフィーの読み方	組織エスノグラフィーの読み方を習得する。
第 9 回	組織エスノグラフィーの書き方	組織エスノグラフィーの書き方を学ぶ
第 10 回	組織エスノグラフィーの記述分析	組織エスノグラフィーの記述を分析する
第 11 回	組織エスノグラフィーの構造化	組織エスノグラフィーの構造化を学ぶ
第 12 回	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方について理解する。
第 13 回	組織エスノグラフィーの伝え方	組織エスノグラフィーの伝え方について理解する。
第 14 回	組織エスノグラフィーの報告会	組織エスノグラフィーの研究構想について検討を行う
第 15 回	ガイダンス	後半の授業概要の説明と学修目標の確認など
第 16 回	プログラム評価とは	ライフキャリア支援等を目的とした「プログラム」を「評価」することの意義をプログラム評価の定義から学ぶ。
第 17 回	評価の目的と評価者の役割	プログラム評価の目的および評価者・ステークホルダーの役割について検討する。
第 18 回	ニーズアセスメント	プログラムやサービスの利用者（クライエント）のニーズの分類とニーズアセスメントの種類について検討する。
第 19 回	問題分析	プログラムが必要となる社会的背景（問題・課題）の分析を行う。
第 20 回	ゴールの可視化	活動方針やゴールを可視化する方法を学ぶ。
第 21 回	ロジックモデルの開発①	プログラムの流れを可視化するためのツールであるロジックモデルの原案を作成する。
第 22 回	ロジックモデルの開発②	ロジックモデルを完成させる。
第 23 回	評価クエスチョン	評価の実施を想定した評価クエスチョンを設定する。
第 24 回	評価可能性アセスメント	実際に評価が可能か否かを査定する評価可能性アセスメントについて学ぶ。
第 25 回	プロセス評価	プログラムの流れ（プロセス）を評価する方法を学ぶ。
第 26 回	アウトカム評価①	アウトカム指標の検討を行う。
第 27 回	アウトカム評価②	主にフィールドでの実験・準実験デザインによるアウトカム評価の概要を学ぶ。
第 28 回	まとめ	テクニカルレポート（評価報告書）の内容と作成方法を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、授業支援システムやオンラインツールを用いて、各回の課題論文を共有していきます。各回の課題論文を読み込み、各自の論点メモを準備してください。また、授業内で課題として残った疑問や授業後にあらためて抱いた疑問や論点等についても、授業支援システム等で議論を重ねていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔・山本和輝 2019『辞める研修　辞めない研修ー新人育成の組織エスノグラフィー』（ハーベスト社）
安田節之 2011『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために』（新曜社）
*その他、必要となる課題論文は PDF 版にして事前に配布します。

【参考書】

田中研之輔　2015『丼家の経営ー 24 時間営業の組織エスノグラフィー』（法律文化社）
田中研之輔・山崎正枝 2016『走らないトヨターネッツ南国の組織エスノグラフィー』(法律文化社)
安田節之・渡辺直登 2008『プログラム評価研究の方法』（新曜社）
コミュニティ心理学会研究委員会　2019『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ)』（新曜社）
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題への取り組みや講義への参加姿勢）50%+課題レポートの総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する補足文献を適宜アップデートしていく。

【担当教員の専門分野等】

田中研之輔
＜専門領域＞
ライフキャリア論・社会学
＜研究テーマ＞
組織エスノグラフィー・プロティアン キャリア論
＜主要研究業績＞
『覚醒せよ、わが身体ートライアスリートのエスノグラフィー』(2018) ハーベスト社
『走らないトヨターネッツ南国の組織エスノグラフィー』(2016) 法律文化社
『丼家の経営ー 24 時間営業の組織エスノグラフィー』(2015) 法律文化社
＊　その他　→ http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/21/0002083/profile.html

【担当教員の専門分野等】

■ 安田節之
＜専門領域＞
プログラム評価論，コミュニティ心理学
＜研究テーマ＞
対人・コミュニティ援助の評価研究およびコンサルテーション研究，超高齢社会におけるライフキャリア研究，ベストプラクティス・アプローチに基づく評価研究など
＜主要研究業績＞
①『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ)』（安田節之，2011 年，新曜社）
②『プログラム評価研究』（安田節之・渡辺直登，2008，新曜社）
③『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ)』（日本コミュニティ心理学会研究委員会，2019 年，新曜社）
参考： https://programevaluationlab.jp/training/program-evaluation/

【Outline (in English)】

The first half of this course aims to provide a “how to” of organizational ethnographic research and, in the process, examine the epistemology, conduct, and power relations of fieldwork. Organizational ethnography is useful in a wide range of settings for research questions that seek to explore the meanings to situational actors of particular practices, concepts or processes.

In the second half of the class, students will learn how to address a variety of issues and problems that are pertinent to one's career in the industrial/educational organizations and local communities on research studies. In particular, we focus attention on theories and methods of program evaluation (PE). PE is a systematic approach that helps researchers/practitioners to identify critical issues and structures for understanding and improving programs. Special attentions will be placed on learning how one can measure processes and effectiveness of the programs that are of interest to each student.
【Work to be done outside of class】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (50%), normal score (50%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

EDU500M1 － 1301

キャリアガイダンス論

藤田　晃之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては，キャリアガイダンスを「キャリア支援・教育」とほぼ同義のものと広く解する。そのうえで，キャリアガイダンスの制度・システムや政策にかかわる諸問題を踏まえつつ，より実践に近い支援現場における課題について，理論的に検討することをねらいとする。
支援場面における問題や課題の背景には，当然，社会構造や労働市場の動態，企業の雇用方針，政策動向といった問題が存在しているので，本来，両者を切り離すことはできない。

【到達目標】
受講者が，①さまざまな場におけるキャリアガイダンスの諸課題について，社会的背景と現場の問題とを往還しながら理解できるようになること，②そのうえで，問題解決への見通しを展望できるようになることが，本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業において，主として検討の対象とするのは，①学校（専門学校や大学を含む）におけるキャリア支援・教育，および②コミュニティにおける若年キャリア支援である。
必要に応じて，キャリアガイダンスにかかわる理論や実態調査の報告書の検討，諸外国で行われているキャリアガイダンス施策の事例紹介なども行う。
授業の方法としては，①教員によるレクチャー，②報告者によるレポート発表（文献発表，個人報告），③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは，②と③である。
キャリア支援の現場にいる実践者をゲストにお呼びしてディスカッションすることも検討したい。
提出された課題等へのフィードバックは，授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス①	授業の内容・方法・進め方について説明する。
第 2 回	授業ガイダンス②	「キャリアガイダンス」をどう把握するかについて，講義とディスカッションを行う。
第 3 回	キャリア教育とキャリア教育政策①	キャリア教育の捉え方，および日本における政策展開について講義する。
第 4 回	キャリア教育とキャリア教育政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 5 回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）①	学校で行われている職場体験・インターンシップについて講義する。
第 6 回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）②	レポート発表，全体でのディスカッションを行う。
第 7 回	学校におけるキャリア教育（進路指導）①	学校における進路指導について，講義する。
第 8 回	学校におけるキャリア教育（進路指導）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 9 回	学校におけるキャリア教育（教科）①	教科教育を通じたキャリア教育について，講義する。
第 10 回	学校におけるキャリア教育（教科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 11 回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）①	高校普通科におけるキャリア教育の現状と課題について講義する。
第 12 回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 13 回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）①	学校で行われるキャリアカウンセリングについて講義する。
第 14 回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 15 回	諸外国におけるキャリア教育①	諸外国におけるキャリア教育について講義する。
第 16 回	諸外国におけるキャリア教育②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 17 回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）①	大学で実施されているキャリア教育科目について講義する。
第 18 回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 19 回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）①	大学生の就職活動，および大学におけるその支援の現状について講義する。
第 20 回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 21 回	若年支援と若年支援政策①	若年支援の捉え方，および諸外国と日本における若年支援策について講義する。
第 22 回	若年支援と若年支援政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 23 回	ジョブカフェにおけるキャリア支援①	ジョブカフェにおけるキャリア支援の実態と課題について講義する。
第 24 回	ジョブカフェにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 25 回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援①	若者サポートステーションにおけるキャリア支援の現状と課題について講義する。
第 26 回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 27 回	高校・大学中退者に対するキャリア支援①	高校・大学中退者に対するキャリア支援の課題について講義する。
第 28 回	高校・大学中退者に対するキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布される指定文献を読み込み，疑問点や評価できる点等を精査してくること。
文献発表および個人報告に際しては，入念な準備を行い，授業時に報告する前に，担当教員からの指導を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
授業時に，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は，授業内で発表するレポートによって行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
より双方向的な授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
場合によって，パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
授業に関連したディスカッションや情報交換を促す目的で，SNS 等のソーシャルネットワークを活用する。（具体的には，Facebook を予定）

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 教育学
＜研究テーマ＞ キャリア教育，青年期教育
＜主要研究業績＞
①『若者とアイデンティティ』（法政大学出版局，2005 年）
②『権利としてのキャリア教育』（明石書店，2006 年）
③『若者はなぜ「就職」できないのか』（日本図書センター，2011 年）
④『これが論点！ 就職問題』（編著，日本図書センター，2012 年）
⑤『「親活」の非ススメ』（徳間書店，2013 年）
⑥『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書，2013 年）
⑦『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス，2015 年）
⑧『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書，2016 年）
⑨『高校教育の新しいかたち』（泉文堂，2019 年）

【Outline (in English)】
This course introduces the concept, theories, policies and methods of career guidance, and discuss about examples of practice in Japan.
The aim of this course is to help students understand career guidance theoretically and practically as a whole.
Students will be expected to work on the indicated task before each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on mid-term report(100 %).

EDU500M1 － 1302

教育経営論

仲田　康一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校組織や経営管理に関する研究に必要となる概念、視角、方法を習得するため、文献検討やディスカッションを行う。
その際には、社会変動や教育政策・法制といったマクロな要因や、よりミクロな現場での実践との相互関係も視野に入れる。

【到達目標】
学校組織や経営管理に関する研究に必要となる概念、視角、方法を理解し、それを用いて論述ができる。
単にこれまでの研究を知るだけでなく、自らが修士論文を執筆するという目的意識に沿って、例えば、調査法や論証法の参考として、表現の手本として、論敵として・・・といった様々な角度から文献を読み解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
初日（第 1・2 回目）は Zoom で行う（URL は学習支援システムで連絡する）。それ以降については、対面形式で行う。
文献購読においては、報告主担当を設定するが、主担当だけでなく全員がコメントシートを作成して臨むものとする。
コメントシートの配布・共有方法については、初回の授業で連絡する。
各自が設定した小テーマに基づくミニ研究を文献購読とは別に行い、中間・最終報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進行、内容、成績評価等についての説明と合意
第 2 回	自己紹介	自己紹介、各々の問題関心の交流
第 3 回	研究をするということ	研究をするプロセスの概略
第 4 回	論文を書くということ	論文を書くプロセスを概略
第 5 回	教育改革の構造 (1)	教育改革の国際的潮流
第 6 回	教育改革の構造 (2)	日本における教育政策過程の構造と変容の動向
第 7 回	教育改革の構造 (3)	学校の自律性向上についての政策動向
第 8 回	教育改革の構造 (4)	今日の改革動向についての批判的検討
第 9 回	教育経営のマクロ要件 (1)	教育政策形成過程
第 10 回	教育経営のマクロ要件 (2)	教育政策決定過程
第 11 回	改革下の教育組織 (1)	英米の学校教育動向
第 12 回	改革下の教育組織 (2)	英米の学校教育動向
第 13 回	改革下の教育組織 (3)	意思決定とミクロ・ポリティクス
第 14 回	改革下の教育組織 (4)	学校組織の中での意味の生成
第 15 回	中間レポートの発表	自らが設定したテーマについての中間レポートの発表とディスカッション
第 16 回	中間レポートの発表	自らが設定したテーマについての中間レポートの発表とディスカッション
第 17 回	改革下の教育組織 (5)	学校の自律化とソーシャル・キャピタル
第 18 回	改革下の教育組織 (6)	学校の自律化と協働・熟議
第 19 回	改革下の教育組織 (7)	学校と他・多分野連携
第 20 回	改革下の教育組織 (8)	教育と福祉領域との連携
第 21 回	改革下の教育組織 (9)	教育リーダーシップ
第 22 回	改革下の教育組織 (10)	ミドルアップダウンマネジメント
第 23 回	改めて教育改革を問う (1)	教育改革とは何で、いつまで続くのか
第 24 回	改めて教育改革を問う (2)	教育には何ができないか
第 25 回	他者の研究から学ぶ (1)	論文の表舞台と舞台裏
第 26 回	他者の研究から学ぶ (2)	研究のキャリア
第 27 回	まとめと内省 (1)	授業内容全体の総括
第 28 回	まとめと内省 (2)	共同でのリフレクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題文献を読み、各自がコメントシートを作成することを予習として求める。また、各自が立てたテーマに即した中間報告と最終報告に向けた事前準備も必要になる。本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】
参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】
毎回の発表を 50 %、中間・最終報告を 50 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで配布物を共有するため、インターネットに接続した PC またはタブレットが必要である（持参できない場合は相談してほしい）。

【その他の重要事項】
受講生の研究課題を踏まえ、トピックや文献の選定に反映させる。研究をする、論文を書く準備として文献を読むということの練習になるよう配慮する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
教育政策・法制研究、教育経営論
＜研究テーマ＞
国・地方の教育政策形成と実施の分析、学校経営（特に、学校と地域社会や福祉領域との協働）
＜主要研究業績＞
『コミュニティ・スクールのポリティクス』（勁草書房、単著、2015 年）、
『学力工場の社会学』（Christy Kulz 著、監訳、明石書店、2020 年）
『教育にこだわるということ』（Gert Biesta 著、分担訳、東京大学出版会、2021 年）

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
The objective of this class is to learn the theories, concepts, and perspectives that relate to educational management, taking into account macro-factors such as social change, educational policy, and legislation, as well as micro practices at the chalkface.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students are expected to understand the theories, concepts, and perspectives
necessary for research on school management.
Students are expected to be able to read and understand literature deeply and critically.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be required to read the literature assigned for each session and prepare their own comment sheets. Students will also be required to prepare for the mid-term and final presentations on their own topics. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Contribution to discussion: 50%, Mid- and final-term report: 50%

EDU500M1 － 1303

キャリア教育論

上西　充子、児美川　孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者の学校から職業への移行の困難や若者の働き方の現状とキャリア教育の政策・実践を照らし合わせ、キャリア教育・キャリア支援が行うべきことは何であるのかを、一歩引いた視点から改めて問い返す。キャリア教育が実施されている各学校段階やステージごとに、現時点で何が問題であり、論点になっているのかについて考察する。

【到達目標】
受講者一人一人が、①それぞれの現場におけるキャリア教育・キャリア支援の抱える課題を認識し、キャリア教育・キャリア支援の枠組みを再考し、再構築できるようになること、②キャリア教育・キャリア支援をめぐる論点や争点を「評論」する立場からではなく、当事者に寄り添った視点から検討できるようになること、が本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、①教員によるレクチャー、②報告者による発表（課題文献の要約と論点提示、個人報告）、③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは、②と③である。テーマごとにあらかじめ関連する文献を読み、レジュメの作成と論点の提示をもとにディスカッションを行う。受講者の実践現場の事例の報告と検討なども取り混ぜて行いたい。また、キャリア支援の現場にいる実践者をゲストにお呼びしてディスカッションすることも検討したい。
提出された課題等へのフィードバックは、授業時に行う。
テーマとしては下記の授業計画の内容を考えているが、受講者の問題関心に応じて多少の変更がありうる。
第１～14 回を上西が、第 15～28 回を児美川が担当する。なお、第１回授業では上西・児美川両名による授業ガイダンスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容・方法・進め方について説明する。
第 2 回	文献の紹介	文献の種類と主要な文献を紹介する。
第 3 回	論点の理解と考察	論点の考察を通してみずからの視点を問い直す。
第 4 回	多様な他者の理解	「他者の合理性の理解」と” 溜め” を検討する。
第 5 回	キャリア支援と社会正義	社会正義の視点を踏まえたキャリア支援を検討する。
第 6 回	調査と調査倫理	調査と発表において踏まえるべき調査倫理を検討する。
第 7 回	現場の課題と調査研究の視点	各自の現場の課題を共有する。
第 8 回	調査研究の意義	調査研究を通して問い直すことの意義を検討する。
第 9 回	政策としてのキャリア教育	キャリア教育施策の開始と展開を検討する。
第 10 回	キャリア教育と労働法教育	キャリア教育の視点と労働法教育の視点の違いを検討する。
第 11 回	メンバーシップ型雇用とキャリア教育	メンバーシップ型雇用と現状のキャリア教育の整合性を再考する。
第 12 回	大卒就職とキャリア教育	大卒就職の現状と課題に対応したキャリア支援を検討する。
第 13 回	大卒就職をめぐる調査の視点	先行研究の検討を通して、調査の独自性と意義を検討する。
第 14 回	キャリア教育と職業教育	職業教育の意義を再考する。
第 15 回	授業（後半）のガイダンス	授業（後半）の内容・方法・進め方について説明する。
第 16 回	課題意識の共有	授業（前半）の振り返りを踏まえ，各自の問題意識を共有する。
第 17 回	中学校のキャリア教育①	「夢（やりたいこと）」を軸にしたキャリア教育のあり方を検討する。
第 18 回	中学校のキャリア教育②	キャリア教育における「職場体験」の意義・実態・課題を検討する。
第 19 回	高校のキャリア教育①	高校キャリア政策における職業教育，キャリア教育を検討する。
第 20 回	高校のキャリア教育②	教育困難校におけるキャリア支援について検討する。
第 21 回	高校のキャリア教育③	新学習指導要領におけるキャリア教育について検討する。
第 22 回	専門学校におけるキャリア教育	ノンエリートのキャリア形成について検討する。
第 23 回	大学におけるキャリア支援・教育①	ユニバーサル段階における大学教育について考察する。
第 24 回	大学におけるキャリア支援・教育②	現在の大学教育改革について検討する。
第 25 回	大学におけるキャリア支援・教育③	大学のキャリア支援・教育における外部連携について検討する。
第 26 回	教育制度外におけるキャリア支援①	地域若者サポートステーションについて検討する。
第 27 回	教育制度外におけるキャリア支援①	リスキリング政策について検討する。
第 28 回	振り返りとまとめ	授業（後半）の授業の振りかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題文献を読み、レジュメやレポートの作成を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
授業時に、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席と討論への参加： 20 %（積極性と共に討論内容に沿った的確性を評価する）
レジュメの作成と論点提示： 30 %（文献の論旨の把握・整理と的確な論点提示を評価）
レポートの作成 50 %（論点の重要性、論理構成の的確さ、記述方法の適切さを評価）

【学生の意見等からの気づき】
より双方向的な授業を心がけたい。授業運営についての意見等は、いつでも受けつける。

【学生が準備すべき機器他】
リアルタイム・オンラインの方式により授業を実施する場合がありうるため、対応する通信環境を整えておくこと。また、パワーポイントの使用を求める場合がある。

【担当教員の専門分野等】
【上西充子】
＜専門領域＞労働問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発
＜研究テーマ＞学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにかかわる支援の在り方
＜関連する主要研究業績＞
①『大学のキャリア支援』（編著、経営書院、2007 年）
②「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010 年）
③「採用選考における文系大学生の知的能力へのニーズと評価」『生涯学習とキャリアデザイン』Vol.9、2012 年 3 月
④「さまよえるキャリア教育」（全５回）『POSSE』22-26 号（2014 年 3 月・6 月・9 月・12 月・2015 年 3 月）
⑤『アルバイト・就職トラブル Q ＆ A』（石田眞・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017 年３月）
⑥「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて―」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018 年２月）
⑦『呪いの言葉の解きかた』（晶文社、2019 年）
⑧「働き方改革の国会審議を振り返って―『多様な働き方』の言葉に隠された争点」（横田伸子・脇田滋・和田肇『「働き方改革」の達成と限界―日本と韓国の軌跡をみつめて』第Ⅰ部第２章、関西学院大学出版会、2021 年）
⑨「就活の労働問題」『都市問題』vol.113、2022 年 10 月
【児美川孝一郎】
＜専門領域＞教育学（キャリア教育、青年期教育、教育政策）
＜研究テーマ＞青年期のキャリア形成とその支援に関する，実践・制度・政策についての研究
＜主要研究業績＞
①『権利としてのキャリア教育』（明石書店、2006 年）
②『若者はなぜ「就職」できなくなったのか？』（日本図書センター、2012 年）
③『これが論点！ 就職問題』（編著、日本図書センター、2013 年）
④『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書，2013 年)
⑤『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エデュタス，2017 年）
⑥『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書，2018 年）
⑦『高校教育の新しいかたち』（泉文堂，2019 年）
⑧『自分のミライの見つけ方』（旬報社，2020 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
In light of the difficulties of young people’s transition from school to work and the current state of young people’s work styles, what is the role of career education and career support? We will reexamine the question from a step back perspective.
【Learning Objectives】
Students are expected to recognize the challenges facing career education and career support in their own fields, and to reconsider and reconstruct the framework for career education and career support.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read the assigned literature and prepare a resume and report.
Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 20 %
Resume preparation and presentation: 30%
Reports ： 50 %

EDU500M1 – 1304

教育社会学

筒井　美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校の専有物でもなければ、教員のみがなす行為でもない、社会の至るところで観察される「教育」という現象を「社会学する」とは、どういう動作をやり抜くことなのか？　このクラスでは、その基礎を徹底的にマスターする。「“論文の神様” はいつ降りてくるのか？」…そんな話もする。

【到達目標】
ゴールは 3 つ。第 1 に、教育に関するさまざまな「常識」を問い直し、知的に新鮮な仮説を設定し、深く調べ尽くし、それを論理性・説得力を持たせて言語化するという一連の動作ができるようになること。第 2 に、学術論文が如何に組み立てられているのか、それを頭と身体で習得すること。第 3 に、歪み・軋みが生じ大変な事態にある日本社会の、教育・福祉・労働をはじめとしたさまざまな領域を、一体どのように再創造していけばよいだろうか？ について脳ミソを絞り、自分自身のスタンスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業形態】
・zoom によるリアルタイム授業で実施します。
【授業の進め方：到達目標との関連】
第 1 のゴールについては、まずは筒井（2015, 2020）によって「大学院で学び研究する」動作に入るウォーミングアップをする。第 2・第 3 のゴールについては、伊藤（2009）をはじめ、教育社会学、教育学、社会政策学などの論文を読み込んでいく。毎回全員が予習として「要約」and/or「コメント」を書いて学習支援システムに提出のうえ、オンラインの「授業に参加」する。毎回発表当番２人制とし、議論する。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。提出レジュメにはコメントを返す。
★詳細については学習支援システム掲載の文書を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「他己」紹介／このクラスの進み方／発表当番決め
2	学術論文とは何か	「学術論文 7 つの構成要素」（筒井オリジナル）を理解する
3	筒井（2015, 2020）	社会人院生が陥りやすい落とし穴を自覚する。社会科学の礎石的概念を知る
4	支援の逆説性（奥田知志）	「支援」と「教育」は違うのか
5	伊藤（2009）の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の習得
6	伊藤（2009）の議論	質的研究のイメージをつかむ
7	吉田（2007）の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の徹底
8	吉田（2007）の議論	依拠する理論的枠組みは何か
9	矢野（2016:1-15）①	マスコミ的教育論議から「社会的必要」の視点へ
10	矢野（2016:1-15）②	精神論・制度論・資源論
11	筒井（2022）の議論①	分析枠組みの設定とは何をすることか
12	筒井（2022）の議論②	先行研究の検討とは何をすることか
13	黒川（2018）の議論①	本書の面白さは何だと捉えたか
14	黒川（2018）の議論②	本書が学術研究たるには何が足りないか
15	黒川（2018）をふまえたワーク①	自分に欠けた知識の自覚とそのカバー
16	黒川（2018）をふまえたワーク②	記述の年表化と「知見」の分脈化
17	黒川（2018）をふまえたワーク③	知見を得ながら問いを洗練する
18	黒川（2018）をふまえたワーク④	問いを洗練し解明の重要性を深化させる
19	筒井（2016）の要約	歴史的（近過去）研究のイメージをつかむ
20	筒井（2016）の議論	近過去から現在を文脈化する
21	筒井（2016）の草稿を読んでの課題	論文は一筆書きでは書けないことを理解する
22	筒井（2016）の草稿を読んでの議論	査読者コメントの活かし方を学ぶ
23	修論執筆に関する修了生のレクチャー	修論研究と執筆に関する体験談を聴く
24	修論執筆に関する修了生とのディスカッション	修論研究と執筆に関し自由闊達に質問・議論する
25	卒論構想発表の予行演習①	＜学術論文７つの構成要素＞ の①～⑤に沿って書て発表
26	卒論構想発表の予行演習②	＜学術論文７つの構成要素＞ の①～⑤に沿って書て発表
27	卒論構想発表の予行演習③	＜学術論文７つの構成要素＞ の①～⑤に沿って書て発表
28	卒論構想発表の予行演習④	＜学術論文７つの構成要素＞ の①～⑤に沿って書て発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回全員が、要約 and/or コメントを書く、あるいは課題をやって学習支援システムの「掲示板」に表示された各回の箇所に提出すること。
＃ 25～28 は卒論構想発表の練習。現時点で持てる材料でよいから、挑戦してみる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・伊藤秀樹 2009「不登校経験者への登校支援とその課題」『教育社会学研究』第 84 集： pp.207-225.
・黒川祥子（2018）『県立！　再チャレンジ高校』講談社現代新書
・筒井美紀 (2016)「大阪府における地域雇用政策の生成に関する歴史的文脈の分析――就労困難者支援の体系化に対する総評労働運動の影響――」『日本労働社会学会年報』第 27 号 pp.107-131.
・筒井美紀 (2022)「『豊中市来談者調査』の狙いと分析枠組み」『社会政策』14(2), pp.47-57.
・筒井美紀 (2020)「暗黙知化されている社会科学の概念的礎石についての解説」『生涯学習とキャリアデザイン』18(1): 31-34.
＊その他の文献含む全文献は学習支援システム「教材」にアップ済み。

【参考書】
筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン――就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
・予習課題の出来具合： 40 %（未提出の場合は減点）
・報告当番： 20 %（社会学的思考・社会学の諸概念の理解とコメントの質）
・平常点： 30 %（発言：質…社会学的思考、社会学の諸概念の理解）
・卒論構想発表： 10 %

【学生の意見等からの気づき】
上記の予習は多少しんどいかと思いますが、簡単なコメントを入れてできるだけ早く返却できるようと努めます。

【その他の重要事項】
「知識や理論を増やして、あとはそれを応用すれば調査ができ論文が書ける」という、多くの大学院生が陥る誤解の払拭に、まず全力を注ぎます。そのため「書いては議論し、議論しては書く」ことを重視しています。かくして、授業は極めて実践的です。

【担当教員の専攻分野等】
＜専門領域＞　教育社会学、労働社会学
＜研究テーマ＞　自治体や国、ＮＰＯの就労支援、学校から職業への移行、労働教育
＜主要研究業績＞
・Tsutsui, Miki and Shuhei Naka (2022) "The Challenges of activation policies in Japan and their local dimension" in Yuri Kazepov et al eds., Handbook of Urban Social Policies. International perspectives on multilevel governance and local welfare. Elgar., pp.429-446
・筒井美紀 (2022)「労働需要側に向けた積極的労働市場政策に関する研究の欧州における展開」『社会政策』13(3) pp.150-157.
・筒井美紀 (2021)「加賀ワークチャレンジ事業（加賀 WCP）の概要と分析枠組み」『社会政策』13(1) pp.63-73.
・筒井美紀 (2020)「『つながり』を創る学校の機能－『人的資本アプローチ』と『地域内蔵アプローチ』」『社会政策』12(1), pp.55-67.
・筒井美紀 (2018)「新規高卒採用に関する企業の認知と行為－－定点観測的インタビューの分析から」JILPT 編『新規高卒就職の現在』
・筒井美紀 (2017)「『変容する産業・労働と教育の結びつき』へのアプローチ」『教育社会学のフロンティア 1 学問としての展望と課題』日本教育社会学会編／本田由紀・中村高康責任編集，岩波書店，pp.275-294.
・筒井美紀 (2016)『殻を突き破るキャリアデザイン－－就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣
・筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著 (2014)『就労支援を問い直す－－自治体と地域の取り組み』勁草書房
・遠藤公嗣・筒井美紀・山崎憲（2012）『仕事と暮らしを取りもどす――社会正義のアメリカ』岩波書店。（第２＆３章執筆）
・J. フィッツジェラルド著、筒井・阿部・居郷訳（2008）『キャリアラダーとは何か』勁草書房。

【Outline (in English)】
What does it to mean "do the sociology of education"? In this class the students are to master the basic skills of the sociology of education.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and written some comments. Your required study time is at least one hour for each
class meeting. Grading is based on the assignment 40%, presentation 20%, in-class contribution 30%, and proposal of master thesis 10%.

EDU500M1 － 1305

生涯学習論

久井　英輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（授業の概要）
この授業では、生涯学習、社会教育を捉える上で重要な基礎知識や視点について、文献講読とディスカッションを通じて検討する。
（授業の意義と目的）
生涯学習、社会教育に関わる理念、制度、実践やその歴史的・社会的背景について適切に把握できる力を養うことを目的とする。

【到達目標】
生涯学習、社会教育に関する理念、制度、実践に関する正確な知識の獲得、及び、それらの歴史的、社会的背景に関する適切な理解、そしてこれらを踏まえて学生各自の研究に活用できる生涯学習・社会教育的視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
最初数回のガイダンス的な授業以外は、文献講読とそれを踏まえたディスカッションとする。それぞれの文献について、発表を担当する受講者は、要約とコメント（ディスカッションに資する論点の提示）を中心としたレジュメを作成することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容説明と問題関心の共有	授業の進め方の詳細について説明するとともに、生涯学習に関する教員、受講者の問題関心を共有する。
第 2 回	生涯学習・社会教育に関する基本概念①	生涯学習、社会教育をめぐる諸概念の基礎知識について確認する。
第 3 回	生涯学習・社会教育に関する基本概念②	生涯学習、社会教育をめぐる制度や実践の現状についての基礎知識について確認する。
第 4 回	生涯学習・社会教育に関する基本概念③	生涯学習、社会教育をめぐる社会背景に関する基礎知識について確認する。
第 5 回	生涯学習をめぐる理念①	生涯教育、生涯学習理念の歴史的系譜について、文献講読を基に検討する。
第 6 回	生涯学習をめぐる理念②	リカレント教育理念の展開について、文献講読を基に検討する。
第 7 回	生涯学習をめぐる理念③	学習社会論の展開について、文献講読を基に検討する。
第 8 回	生涯学習をめぐる理念④	生涯学習に関わって国際機関の提唱する理念について、文献講読を基に検討する。
第 9 回	成人学習者を捉える理論①	成人学習理論の展開の概要について、文献講読を基に検討する。
第 10 回	成人学習者を捉える理論②	ノールズのアンドラゴジー論、自己主導型学習理念について文献講読を基に検討する。
第 11 回	成人学習者を捉える理論③	メジローらの変容的学習理論について、文献講読を基に検討する。
第 12 回	成人学習者を捉える理論④	コルブの経験学習の理論について、文献講読を基に検討する。
第 13 回	成人学習者を捉える理論⑤	レイヴ&ウェンガー状況的学習論について、文献講読を基に検討する。
第 14 回	成人学習者を捉える理論⑥	エンゲストロームの拡張的学習の理論について、文献講読を基に検討する。
第 15 回	成人学習者を捉える理論⑦	センゲの「学習する組織」について、文献講読を基に検討する。
第 16 回	成人学習者を捉える理論⑧	格差、学習障壁に関わる成人学習理論について、文献講読を基に検討する。
第 17 回	日本における社会教育の歴史と現状①	社会教育施設経営の現状と課題について、文献講読を基に概観する。
第 18 回	日本における社会教育の歴史と現状②	社会教育施設と住民自治をめぐる課題について、文献講読を基に検討する。
第 19 回	日本における社会教育の歴史と現状③	社会教育行政・施設職員のキャリア形成について、文献講読を基に検討する。
第 20 回	日本における社会教育の歴史と現状④	社会教育行政の歴史的展開と現代における課題について、文献講読を基に検討する。
第 21 回	日本における社会教育の歴史と現状⑤	民間の社会教育事業（営利・非営利）の展開について、文献講読を基に検討する。
第 22 回	日本における社会教育の歴史と現状⑥	公共職業訓練の現状について、文献講読を基に検討する。
第 23 回	地域・学校の連携・協働と社会教育①	地域・学校の連携・協働と社会教育の関係をめぐる歴史的展開について、文献講読を基に検討する。
第 24 回	地域・学校の連携・協働と社会教育②	コミュニティスクールの現状について、文献講読を基に検討する。
第 25 回	地域・学校の連携・協働と社会教育③	地域学校協働活動の現状について、文献講読を基に検討する。
第 26 回	地域・学校の連携・協働と社会教育④	家庭教育支援の現状と課題について、文献講読を基に検討する。
第 27 回	授業の振り返り①	これまでの文献講読の内容に基づいて各受講者が論点を提示し、それを基に討論を行う。
第 28 回	授業の振り返り②	各受講者が自分自身の研究関心とこれまでの文献講読の内容との関連について報告し、それを基に討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。
・各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
・各回の授業後、討論の内容と前回までの文献との関係を踏まえつつ、文献をもう一度読み直すこと。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講読文献は多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたは PDF ファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
文献講読発表　50 %
討論への貢献度　50 %

【学生の意見等からの気づき】
文献発表、コメントの負担が過重とならないよう受講者の状況を随時勘案しつつ、学習効果が低減しないように課題を設定したい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【担当教員の専門分野等】
法政大学学術研究データベース
担当教員のページの URL ：

https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/112/0011129/profile.html

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aim of this course is to provide basic knowledge and viewpoints regarding lifelong learning and social education through text reading, presentations, and discussion.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to acquire ability to grasp the thoughts, systems, practices of lifelong learning and social education and to understand their historical and social context appropriately.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: Presentations(50%), contribution to discussion(50%).

MAN500M1 － 1401

キャリア開発論

武石　恵美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえることができるようになるとともに、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。

【到達目標】
授業の到達目標は以下のとおり。
・個人のビジネスキャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつ。
・ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解する。
・関連する文献、論文の講読を通じて、自身の問題意識を明確にし、それを主張することができる。
・研究テーマに対してどのように研究を進めればよいのか、研究方法論について一定の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、下記の大テーマに関連して、理論等の概説や問題提起を中心とする講義、質疑、ディスカッションにより進めます。ただし、授業内容は、受講者の状況に応じて変更することがあります。
(1) キャリア開発に関する基礎
(2) キャリア開発の変化の動向
(3) 個人が進めるキャリア開発
(4) キャリア開発を支援する組織、社会
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは個別に行うとともに、共有すべき内容は授業において行う予定です。
なお、第 1 回はオンラインでの開催となります。その後の授業実施形態は、受講状況（受講者数や受講者の希望等）により決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	授業の説明、受講者の問題意識についてのディスカッション。
2 回	キャリア開発概論	キャリア開発についての概論。
3 回	キャリア開発をとらえる視点	キャリア開発をとらえる視点について。
4 回	キャリア開発にかかわる理論的な枠組み	キャリア開発を議論するうえで重要な理論的な枠組みについて。
5 回	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体について。
6 回	人材育成との違い	キャリア開発と人材育成との視点の違いについて。
7 回	経済環境の変化とキャリア自律	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発、キャリア形成のモデルやそのあり方がどのように変化したのか、縦断的な視点からのアプローチを行う。
8 回	経済環境の変化とキャリア自律（文献講読等）	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発がどのように変化したのかについて、文献をもとにディスカッションをする。
9 回	ダイバーシティ経営	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について事例を含めて検討する。
10 回	ダイバーシティ経営（文献講読等）	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について、文献をもとにディスカッションをする。
11 回	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、課題について「多元化」の切り口から考察する。
12 回	正社員の多元化とキャリア開発（文献講読等）	正社員の働き方の現状、課題について、文献をもとにディスカッションをする。
13 回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革	ワークライフバランス政策、企業が行う働き方改革について理解する。
14 回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革（文献講読等）	ワークライフバランス政策、企業が行う働き方改革について、文献をもとにディスカッションをする。。
15 回	女性のキャリア開発	ジェンダーの視点から男女の雇用格差の実態を把握し、女性のキャリア開発の課題を検討する。
16 回	女性のキャリア開発（文献講読等）	女性のキャリア開発の課題について、文献をもとにディスカッションをする。
17 回	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発について検討する。
18 回	育児期のキャリア開発（文献講読等）	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発について、文献をもとにディスカッションをする。
19 回	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立のあり方について検討する。
20 回	介護責任とキャリア開発（文献講読等）	介護と仕事の両立のあり方について、文献をもとにディスカッションをする。
21 回	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題について検討する。
22 回	非正規労働者のキャリア開発（文献講読等）	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題について、文献をもとにディスカッションをする。
23 回	高齢期のキャリア	高齢期のキャリア開発の現状と課題について検討する。
24 回	高齢期のキャリア（文献講読等）	高齢期のキャリア開発の現状と課題について、文献をもとにディスカッションをする。
25 回	職場の課題への対処	ブラック企業、ハラスメントなどの職場での課題の現状について検討する。
26 回	職場の課題への対処（文献講読等）	ブラック企業、ハラスメントなどの職場での課題の現状について、文献をもとにディスカッションをする。
27 回	総括	授業の振り返り
28 回	総括	授業のまとめ、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回、文献講読の課題が出てレジュメの作成を求めることになります。
また、2 回のレポート課題を予定しています。
本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う (改訂版)』中央経済社（2023 年 4 月出版予定）を使用します。
このほかに関連する文献を講読します。講読する文献は授業で具体的に指定します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
○ 平常点 70 %：ディスカッションへの参加も含む
○ レポート 30 %：レポート内容を評価。未提出や期限を過ぎての提出があれば不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
修士論文の課題設定や執筆のための視点の提供をしていくとともに、受講者からのプレゼンテーションや話題提供をベースにしたディスカッションを積極的に取り入れていきます。
また、課題のレポートはコメントを付けて返却し、それをもとに論文の書き方についての解説も加えます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理論、女性労働論
＜研究テーマ＞働き方の多様化、ダイバーシティ経営、女性のキャリア形成
＜主要研究業績（主な著書）＞
・『シリーズダイバーシティ経営　多様な人材のマネジメント』（共編著）、中央経済社、2022 年.
・『シリーズダイバーシティ経営　女性のキャリア支援』（共編著）、中央経済社、2020 年.
・『ダイバーシティ経営と人材活用』（共編著）、東京大学出版会、2017 年.
・『キャリア開発論』、中央経済社、2016 年.
・『ワーク・ライフ・バランス支援の課題』（共編著）、東京大学出版会、2014 年.
・『国際比較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える』（編著）、ミネルヴァ書房、2012 年
・『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』（共編著）、勁草書房、2011 年.
・『職場のワーク・ライフ・バランス』（共著）日本経済新聞出版社、2010 年.
・『叢書働くということ　第 7 巻　女性の働きかた』（共編著）、ミネルヴァ書房、2009 年.
・『人を活かす企業が伸びる　－人事戦略としてのワーク・ライフ・バランス』（共編著）勁草書房、2008 年.
・『雇用システムと女性のキャリア』勁草書房、2006 年.

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.
【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students will be expected to spend 3 hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policies】
Final grade will be calculated according to the following process
Report (30%) and in-class contribution(70%)

MAN500M1 － 1402

人的資源管理論

佐藤　厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1　主題を日本企業の人的資源管理の現状と課題とします。
2　人的資源管理とは何かを理解します。
3　人的資源管理とキャリア形成との接点・インターフェイスに浮かび上がる重要な論点について考察します。

【到達目標】
1　受講者が人的資源管理の基礎知識を習得し、さらに実務課題へ応用することのできる力を身につけます。
2　人的資源管理論とキャリア論に関する文献読解及び討論を通じて、修士論文作成に必要な文献を批判的に読解する力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義の主題である人的資源管理の現状と課題を理解するには以下の三つの課題が必要と思います。第１に、人的資源管理とは何かの基礎を学ぶ必要があるでしょう（第１の課題）。だが、企業を取り巻く需給両面での環境変化が著しい。そうした状況下では、第２に需要サイドの変化、及び第３に供給サイドの変化の両面から、人的資源管理を捉え返す作業が必要となるでしょう。このうち第２については、経営戦略や経営組織と人的資源管理作業との関連把握が要となり、その際の鍵概念が「仕事管理」という概念です（第２の課題）。また第３については、就業ニーズの多様化をどう受け止めるかが要となります。その際の鍵概念が「キャリアの多様化」であります（第３の課題）。
なお、以下の授業計画はあくまで計画であり、若干の修正はありますのでご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 講義の進め方・参考文献紹介	講義の進め方・授業で取り上げる参考文献紹介、レポート作成要領などについての解説
第 2 回	講義の進め方・参考文献についての討論	講義の進め方・参考文献についての参加者の経験を踏まえた意見交換
第 3 回	人的資源管理の目的と機能	人的資源管理の概念と機能、人事部の役割に関する解説
第 4 回	人的資源管理の目的と機能に関する討論	人的資源管理の概念と機能、人事部の役割に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 5 回	経営戦略・組織と人的資源管理	経営戦略ー組織構造ー人的資源管理の関連についての解説
第 6 回	経営戦略・組織と人的資源管理に関する討論	経営戦略ー組織構造ー人的資源管理の関連に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 7 回	雇用管理（1）	採用と退職の管理に関する解説
第 8 回	雇用管理（1）に関する討論	採用と退職の管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 9 回	雇用管理（2）	異動と昇進の管理に関する解説
第 10 回	雇用管理（2）に関する討論	異動と昇進の管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 11 回	人事制度	社員区分、社員各付け、職能資格制度についての解説
第 12 回	人事制度についての討論	社員区分、社員各付け、職能資格制度に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 13 回	人事評価・賃金管理	人事評価・賃金管理に関する解説
第 14 回	人事評価・賃金管理に関する討論	人事評価・賃金管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 15 回	労働時間管理	労働時間の概念、管理の在り方と課題
第 16 回	労働時間管理に関する討論	労働時間の概念、管理の在り方と課題に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 17 回	キャリア管理とその支援（1）	キャリアに関わる主要概念（キャリア・アンカー、バウンダリーレスキャリア、心理的契約など）に関する解説
第 18 回	キャリア管理とその支援（1）に関する討論	キャリアに関わる主要概念（キャリア・アンカー、バウンダリーレスキャリア、心理的契約など）に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 19 回	キャリア管理とその支援（2）	キャリア環境の変化と課題（伝統的キャリアと新しいキャリア）に関する解説
第 20 回	キャリア管理とその支援（2）に関する討論	キャリア環境の変化と k 課題（伝統的キャリアと新しいキャリア）に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 21 回	能力開発と教育訓練	企業内教育訓練の体系、OJT と Off-JT 及び自己啓発、長期の仕事経験としてのキャリア、HRD（人材開発）概念の解説
第 22 回	能力開発と教育訓練	企業内教育訓練の体系、OJT と Off-JT 及び自己啓発、長期の仕事経験としてのキャリア、HRD（人材開発）概念に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 23 回	非典型雇用及び外部人材	非典型雇用の概念と現状、活用に関わる課題の解説
第 24 回	非典型雇用及び外部人材に関する討論	非典型雇用の概念と現状、活用に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 25 回	労働組合と労使関係	労働組合の組織と機能、労使関係の個別化、未組織企業の組織化に関する解説
第 26 回	労働組合と労使関係に関する討論	労働組合の組織と機能、労使関係の個別化、未組織企業の組織化に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論
第 27 回	人的資源管理のフロンティア	仕事と生活の調和と人事管理の解説
第 28 回	人的資源管理のフロンティアに関する討論	仕事と生活の調和と人事管理に関する文献読解、報告及び参加者の経験を踏まえた討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義は講義者による講義をベースにしますが、その内容理解は、あくまで参加者による主体的な論点の提起や討論によって初めて深めることが可能となります。毎回の講義テーマに関わる資料、データ、事例などを適宜収集しておくようにしてください。目安時間は 2 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
①テキスト：今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門 (第 2 版)』日本経済新聞社
②サブテキスト：佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂、2011 年,
③佐藤　厚『組織のなかで人を育てる－－企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣、2016 年
④佐藤　厚『日本の人材育成とキャリア形成：日英独比較』中央経済社、2022 年

【参考書】
①佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル　新しい人事労務管理』有斐閣
②佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学』有斐閣
③中村圭介・石田光男編『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社
④佐藤厚編著『業績管理の変容と人事管理』ミネルヴァ書房（2007 年）
⑤『日本労働研究雑誌』のバックナンバー（授業時に指示します）

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献を 50、文献もしくは課題レポートを 50 とします（あくまで大まかな目安です）。
具体的には、①指定文献（授業主題に関連した研究論文や事例などです）の報告と討論、および②課題レポート（頻度は 3 回程度）の提出と討論が重視されます

【学生の意見等からの気づき】
1　受講者との意見交換や受講者間での討論時間を確保する。
2　毎回取り上げて読む文献読解の趣旨を明確にする。
3　演習問題等を例示して、授業到達目標を明確にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞産業社会学・人的資源管理論
＜研究テーマ＞ホワイトカラーの仕事管理・人事管理及びキャリア形成
＜主要研究業績＞
①佐藤　厚『ホワイトカラーの世界――仕事とキャリアのスペクトラム』日本労働研究機構（現　独立行政法人　労働政策研究・研修機構），2001 年
②佐藤　厚「雇用政策と人的資源管理政策」同志社大学大学院総合政策科学研究科編『総合政策科学入門』成文堂，2004 年
③佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣，2004 年
④佐藤　厚・佐野嘉秀「『成果主義』先進企業の変革――電機メーカー」中村圭介・石田光男編『ホワイトカラーの仕事と管理』東洋経済新報社，2005 年
⑤佐藤　厚編著『業績管理の変容と人事管理』ミネルヴァ書房，2007 年
⑥佐藤　厚「仕事管理と労働時間――長労働時間発生のメカニズム」『日本労働研究雑誌』2008 年 6 月
⑦佐藤　厚「人的資源管理論とキャリア論」『生涯学習とキャリアデザイン 2008 年度法政大学キャリアデザイン学会紀要』Vol.6　2009 年
⑧佐藤　厚『キャリア社会学序説』泉文堂、2011 年
⑨佐藤　厚「企業における人材育成の現状と課題」社会政策学会編『社会政策』2012 年第 3 巻第 3 号
⑩佐藤　厚「中小機械・金属関連産業における能力開発」『日本労働研究雑誌』2012 年 1 月
⑪佐藤　厚「マネージャーの仕事とキャリア」『生涯学習とキャリアデザイン』vol.12,2014 年
⑫佐藤　厚「人材育成とキャリア形成」『日本労務学会誌』第 15 巻第 1 号 2014 年

13 佐藤　厚「キャリアデザイン研究の成果と課題」日本キャリアデザイン学会編『日本キャリアデザイン学会 10 周年記念誌』2014 年
14「企業コミュニティとキャリア形成、人材育成」『生涯学習とキャリアデザイン』vol.14,2016 年

【Outline (in English)】
【Outline and objectives】
1 Main subject of this class is the current status and issues of human resource management of Japanese companies.
2 First purpose of this class is to understand what human resource management is.
3 Second purpose of this class is to consider the important issues that emerge from interfaces between human resource management and career development.
【Learning Objectives】
1 Students will acquire the basic knowledge of human resource management and acquire the ability to apply it to practical tasks.
2. Through reading and discussing literature on human resource management theory and career theory, we will develop the ability to critically read the literature necessary for master's thesis writing.
【Learning activities outside ofclassroom】
Lectures are based on lectures by lecturers, but their understanding of the content can only be deepened by the participants raising and discussing proactive issues. Please collect materials, data, examples, etc. related to each lecture theme as appropriate.
【Grading Criteria/Policy】
The contribution to the class is 50, and the literature or assignment report is 50 (just a rough guide).
Specifically, the emphasis is on (1) reporting and discussion of designated documents (research papers and cases related to the subject of the lesson), and (2) submission and discussion of assignment reports (frequency is about 3 times).

MAN500M1 － 1403

経営組織マネジメント論

木村　琢磨

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※本授業は ZOOM を用いたリアルタイムオンライン授業により行う予定です。ZOOM の URL 等は学習支援システムの連絡事項を読んでください。
概要：
　本授業では、組織行動（Organizatinal Behavior）の研究の主なトピックを取り上げ、企業組織・人材のマネジメントに関する基礎的な理論を学びます。
目的：
　人材のマネジメント、キャリア開発について企業経営の視点から実証研究を行うための、基礎的な理論的知識・思考力を養うことを目的とします。

【到達目標】
・個人の特性・心理・態度・行動に関する基礎的な概念・理論を説明できる。
・集団の行動に関する基礎的な概念・理論を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
土曜日の１・２限で 14 週（計 28 回）に行います。実施形態は下記の通りです。
・１限：テキスト・提出課題の内容に関する解説
・２限：テキスト・提出課題の内容に基づく質疑・ディスカッション
質疑とディスカッションの時間は授業時間内に十分に取りますので、質問は授業時間中に出してください。時間が足りない場合はオフィスアワーを使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と目的、到達目標、学習方法
第 2 回	学術研究の基礎	経営組織・組織行動に関する学術研究の基本的な考え方・方法
第 3 回	個人の行動の基礎（1）	価値観、態度
第 4 回	個人の行動の基礎（2）	認知、学習
第 5 回	パーソナリティと感情（1）	パーソナリティ
第 6 回	パーソナリティと感情（2）	感情
第 7 回	動機づけの基本的なコンセプト（1）	初期の動機づけ理論
第 8 回	動機づけの基本的なコンセプト（2）	現代の動機づけ理論
第 9 回	動機づけ：コンセプトから応用へ（1）	目標による管理、行動修正法、従業員認知プログラム、従業員の巻き込みプログラム
第 10 回	動機づけ：コンセプトから応用へ（2）	職務再設計と勤務形態の選択、変動給与制、能力給
第 11 回	個人の意思決定（1）	意思決定はどのように行われるか
第 12 回	個人の意思決定（2）	意思決定の実際、意思決定における倫理
第 13 回	集団行動の基礎（1）	集団の定義と分類、集団の基本的概念
第 14 回	集団行動の基礎（2）	集団の意思決定
第 15 回	チームを理解する（1）	チームが多用される理由、チームとグループの違い、チームのタイプ
第 16 回	チームを理解する（2）	チーム・ビルディング、チームプレイヤー
第 17 回	コミュニケーション（1）	コミュニケーションの機能・プロセス・方向
第 18 回	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因、異文化コミュニケーション
第 19 回	リーダーシップ（1）	リーダーシップの定義、特性理論、行動理論、条件適合理論
第 20 回	リーダーシップ（2）	カリスマ的リーダーシップ、信頼とリーダーシップ
第 21 回	パワーと政治（1）	パワーの定義、パワーの源泉、パワーと依存
第 22 回	パワーと政治（2）	連帯形成、社内政治
第 23 回	コンフリクトと交渉（1）	コンフリクトの定義と分類
第 24 回	コンフリクトと交渉（2）	コンフリクトのプロセス、交渉
第 25 回	質疑とディスカッション（1）	個人レベルのトピックに関する質疑とディスカッション
第 26 回	質疑とディスカッション（2）	集団レベルのトピックに関する質疑とディスカッション
第 27 回	総括（1）	全体のまとめと理解度確認
第 28 回	総括（2）	理解度が不足している事項に関する補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、テキストの該当章を読み、考察をまとめたレポートを授業の前々日までに提出
・各回の授業内容の復習
・上記２点の準備学習は３時間、授業後の復習時間は１時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
・スティーブン・P・ロビンス著、髙木晴夫訳（2009）『組織行動のマネジメント（新版）』ダイヤモンド社

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
１．レポート（30 %）
・テキストの内容を十分に読み込んで考察ができているかどうかを問う。
・レポートの段階では概念と理解の正確さを問うというよりは、テキストの説明を読み込んで現実の問題と関連づけて考えているかどうかを問う。
２．最終試験（70 %）
・基礎的な概念・理論を正確に理解しているか、類似の概念や理論との違いを説明できるかを問う。
・個人的な見解を問うものではなく、先行研究の内容を知識として習得できているかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
・学習した内容を定着させるため成績評価は知識の習得度を問う試験を主として行う。

【学生が準備すべき機器他】
指定テキスト

【その他の重要事項】
提出課題に基づく質疑やディスカッションを中心とした少人数での実施を前提としています。そのため、キャリアデザイン学研究科および科目履修生の受講者数が合計で 10 名に達した場合、他研究科の履修を制限することがあります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
組織行動（organizational behavior）
ビジネス・アナリティクス（business analytics）
＜主要研究業績＞
・How and when corporate social responsibility affects salespeople's organizational citizenship behaviors?: The moderating role of ethics and justice. Corporate Social Responsibility and Environmental Management, 2019, 26(3), 548-558.
・The roles of political skill and intrinsic motivation in performance prediction of adaptive selling. Industrial Marketing Management, 2019, 77, 198-208.
・Work overload and intimidation: The moderating role of resilience. European Management Journal, 2018, 36(6), 736-745.
・Ethical Leadership and Its Cultural and Institutional Context: An Empirical Study in Japan. Journal of Business Ethics, 2018, 151(3), 707-724.
・A Review of Political Skill: Current Research Trend and Directions for Future Research. International Journal of Management Reviews, 2015, 17(3), 312-332.

【Outline (in English)】
Course outline
This course covers basic constructs and theories of organizational behavior, focusing on individual and group levels.
Learning objectives
1. Can explain constructs and theories of individuals' attribute, attitudes, and behavior
2. Can explain constructs and theories of group behavior
Learning activities outside of classroom
1. Read the textbook and write up short essays.
2. Prepare the final exam
Grading Criteria
1. Short essays: 30%
2. Final exam: 70%

MAN500M1 － 1404

人事組織経済学

梅崎　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学と言うと、市場の分析であると考える方も多いと思います。もちろん、労働市場の分析はキャリア研究にとって重要なテーマですが、それ以外に組織や人事に対しても経済学は有効な分析枠組みです。最近は、行動経済学など心理学と境界領域の経済学、また制度派経済学にはインタビュー調査を多用する研究の伝統があります。この授業では，まず受講生の関心テーマを考慮しつつ、人的資本，情報の非対称性，インセンティブ，行動経済学などの理論・概念を学びます。加えて，企業内人事データの統計分析やインタビュー調査事例を通して調査手法についても実践的に学びます．人事管理と組織デザインの具体的事例を知るだけでなく、それらを分析できる思考を身に付け、論文を書く能力を身につけることを目標としています。論理的思考方法と多様な調査方法の習得は、実際のビジネス意思決定にも役立つでしょう。

【到達目標】
理論と調査・分析手法を使いこなせること、具体的には、組織や人事制度、組織内行動の解釈をインセンティブ理論や人的資本理論などによって説明可能になることなどを目標とする。修士論文作成のために必要な計量分析とインタビュー調査の実証方法も「分析結果を読める」ことはもちろんですが、「自分で分析できる」までになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
人事経済学（Personnel Economics）と組織経済学（Economic Approaches to Organizations）の理論と調査事例を解説します。はじめに理論と概念を解説した後に、具体的な企業事例を紹介し、参加者と議論します。理論解説 → 分析事例の紹介 → 議論という流れの中で、論理的思考方法を学びます。また、具体的分析事例を紹介しますが、その際、データの扱い方・インタビュー方法、読み方についても習得できるように講義・議論します。なお、授業は 2 回連続で行い、半期で終了します。課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業時間内とオフィスアワーを通じて行う予定です。また、対面での授業を考えておりますが、コロナの感染状況を踏まえ、受講生の基礎疾患等を考慮して実施形態を個別に検討することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学・経営学の位置づけ	経済学・経営学の学び方について入門説明。
第 2 回	問いの立て方、論文の読み方、議論の仕方。	研究デザインについて講義する。
第 3 回	研究計画の立て方	問い → テーマ設定 → 理論検討 → 調査デザインの流れを講義する。
第 4 回	官庁統計、白書、調査報告書の探し方	データや文献の探し方について講義する。
第 5 回	労働統計・ヒアリング調査事例	『労働・職場調査ガイドブック』を使いながら、調査の全体像をつかむ。
第 6 回	様々な調査方法の紹介	『労働・職場調査ガイドブック』を使いながら、質的調査と量的調査の手法を紹介する。
第 7 回	情報の経済学	情報の非対称性とシグナリング理論を解説。
第 8 回	情報の経済学（事例紹介）	就職・転職などの調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第 9 回	内部労働市場	取引費用の発生と内部労働市場論を解説。
第 10 回	内部労働市場（事例紹介）	取引費用の発生と内部労働市場論の調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第 11 回	人的資本	人的資本理論、企業特殊的熟練を解説。
第 12 回	人的資本（事例紹介）	人的資本理論、企業特殊的熟練に関する調査研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第 13 回	生産現場の技能形成	生産システム論と知的熟練論を解説。
第 14 回	生産現場の技能形成（事例紹介）	ブルーカラーの職場観察とインタビュー調査を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第 15 回	オフィスの技能形成	ホワイトカラーの技能形成の理論、OJT やインセンティブ設計を解説。
第 16 回	オフィスの技能形成（事例紹介）	ホワイトカラーの技能形成における実証研究を紹介し、調査の結果と方法を議論する。
第 17 回	集団的創造性とイノベーション	経営学の関連領域まで広げながら、創造性とイノベーションの理論を紹介します。
第 18 回	集団的創造性とイノベーション（事例紹介）	集団的創造性が生まれる空間とコミュニケションの調査事例を紹介しつつ、調査の結果と方法を議論する。
第 19 回	組織内競争と動機付け	競争と動機付け、講堂経済学の理論を紹介する。
第 20 回	組織内競争と動機付け（事例紹介）	キャリアツリー法、賃金設計などの調査事例を紹介しつつ、調査の結果と方法を議論する。
第 21 回	人事マイクロデータの統計分析	人事マイクロデータを使って研究を紹介します。
第 22 回	人事マイクロデータの統計分析の実習	実際の人事マイクロデータを使って Excel で統計分析を行います。
第 23 回	日本的雇用システムの歴史	日本的雇用システムの研究史について紹介します。
第 24 回	日本的雇用システムの現在	最新の雇用システムの調査を紹介し、議論します。
第 25 回	応用：若者雇用、女性労働、高齢者雇用	理論を踏まえた応用分野の研究を紹介します。
第 26 回	応用：若者雇用、女性労働、高齢者雇用（事例紹介）	若者雇用、女性労働、高齢者雇用について、私が行なった調査を紹介しながら、受講生と議論します。
第 27 回	応用：雇用問題、労使関係、雇用政策	発言ー退出モデルなどの労使関係の理論を解説します。
第 28 回	応用：雇用問題、労使関係、雇用政策（事例紹介）	雇用問題、労使関係、雇用政策について私が行なった調査を紹介しながら、受講生と議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習として、関連論文 1 本を読んでもらいます。学部レベル教科書の予習は理論の解説の事前準備になりますし、関連論文の予習は受講生とのディスカッションの前提となります。論文で使われている調査方法の解説は、皆さんが修士論文を書く時に役立つでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 4～5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使わずに、レジュメを配布しながら解説します。ただし、講義前に参考文献を読んでもらいます。また、調査方法については、以下の本（一部）を使って解説します。調査方法習得に役立つと思います。
梅崎修・池田心豪・藤本真『労働職場調査ガイドブック－多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社）

【参考書】
参考文献
　小池和男（2005）『仕事の経済学』（東洋経済新報社）
　松繁寿和（2008）『労働経済』（放送大学教育振興会）
　ラジアー (2000)『人事と組織の経済学』(樋口・清家訳：日本経済新聞社)(Lazear, E. “ Personnel Economics for Managers” John Wiley & Sons Inc)
学部向け教科書ですが、以下の本はデータが豊富で役立ちます。
松繁寿和・阿部正浩編（2010）『キャリアのみかた』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）・・・議論への参加を評価します。
レポート課題（50 %）・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
理論の紹介に関しては、基礎的文献や教科書を紹介して理解を深めるようにします。事例紹介では、修士論文のための調査法を意識して解説・議論します。統計分析、インタビュー調査の習得を意識します。

【担当教員の専門分野等】
労働経済学、人的資源管理、教育経済学
共編著『労働職場調査ガイドブック－多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社,2019）
単著『日本のキャリア形成と労使関係―調査の労働経済学』（慶應義塾大学出版会,2021）
共編著『大学生の内定獲得―就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐって』（法政大学出版局,2019）
共編著『学生と企業のマッチング－データによる探索』法政大学出版局,2019）

【Outline (in English)】
This course will overview major topics in personnel and organization
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN500M1 － 1405

職業キャリア政策論

松浦　民恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「職業キャリア」を軸として、職業の位置づけや職業観とその背景にある社会構造を、歴史的・国際的な観点から理解し、その上で現状について改めて考えます。また、職業能力開発支援政策・職業と人材のマッチング政策の背景・現状について学び、課題やあるべき方向性について考えます。途中で事例紹介のための資料、課題レポートを提出頂き、授業のなかでの発表・ディスカッション・講評（講評はレポートについて）を予定しています。

【到達目標】
以下を到達目標とします。
①職業の位置づけや職業観について、社会構造と関連づけて理解することができる。
②職業キャリアに関わる国や企業の政策の現状や課題を理解し、複眼的な視点で考察することができる。
③修士論文の作成に向けて、的確な課題設定・仮説提示や、説得的な論旨の展開ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は 14 週（２限続きで合計 28 回）で実施します。毎回、講義形式（問題提起や概説）だけでなく、輪読やディスカッションを中心とする参画型の形式も取り入れます。
輪読については、事前に指定した文献・論文について担当の受講者から報告頂き、全員でディスカッションを行います。
また、①勤務先等の事例をご紹介いただく回、②統一テーマ「企業・団体における人材育成（仮）」のなかで自分なりの個別テーマを立てて執筆頂いたレポートをご報告頂く回、も設ける予定です。
初回授業は対面で実施予定です。その後の実施形態については、対面の回、オンラインの回を織り交ぜる可能性が高いです（同じ回で対面とオンラインを併用することは予定しておりません）。初回授業で、受講生とご相談のうえ、計 14 日（28 回）の実施形態を決定します（このため、対面・オンラインの運営が変更になる場合があります）。
なお、受講人数等によって指定文献・論文の輪読の回数を調整する必要がありますので、それ次第で授業計画を一部変更することになります点、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明（文献・論文の指定とレジュメ作成の分担、課題レポートのテーマ等） ②受講者の現時点での問題意識の共有
第 2 回	職業とは	職業の定義や日本における職業の位置づけに関する概説
第 3 回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（1）	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷に関する概説
第 4 回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（2）	職業の変遷と今後の変化に関するディスカッション
第 5 回	職業倫理と組織（1）	職業倫理と組織に関する概説
第 6 回	職業倫理と組織（2）	指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 7 回	日本的雇用システムのもとでの職業キャリア（1）	日本的雇用システムのもとでの職業キャリアに関する概説
第 8 回	日本的雇用システムのもとでの職業キャリア（2）	日本的雇用システムに関するディスカッション
第 9 回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（1）	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援に関する概説
第 10 回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（2）	指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 11 回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（1）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～民間企業（仮）
第 12 回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（2）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～団体（仮）
第 13 回	職業キャリア政策（1）職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズム	職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズムに関する概説
第 14 回	職業キャリア政策（2）同一労働同一賃金と均等・均衡規制	同一労働同一賃金の議論の背景と均等・均衡規制の考え方に関する概説
第 15 回	職業キャリア政策（3）女性活躍推進政策の現状と課題	女性活躍推進政策の現状と課題に関する概説
第 16 回	職業キャリア政策（4）女性活躍推進の現状と課題	女性活躍推進に関するディスカッション
第 17 回	職業キャリア政策（5）労働時間規制の変遷	労働時間規制の変遷に関する概説
第 18 回	職業キャリア政策（6）労働時間規制と働き方改革	指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 19 回	職業と人材のマッチング（1）労働市場における職業と人材のミスマッチ	労働市場における職業と人材のミスマッチと、官民による人材サービスの現状に関する概説
第 20 回	職業と人材のマッチング（2）官民による人材サービスの種類と役割	指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 21 回	職業と人材のマッチング（3）派遣規制の変遷	派遣規制の変遷に関する概説
第 22 回	職業と人材のマッチング（4）派遣社員のキャリア形成	指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 23 回	職業と人材のマッチング（5）職業紹介・求人広告の現状と課題	職業紹介・求人広告の現状と課題に関する概説
第 24 回	職業と人材のマッチング（6）個人の職業キャリアと職業紹介・求人広告	職業紹介・求人広告に関するディスカッション
第 25 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（1）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・前半
第 26 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（2）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・後半
第 27 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（3）	課題レポートの報告と質疑・講評～団体
第 28 回	授業の振り返り	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定した文献・論文については、受講者全員が事前に読んだ上でご出席下さい。また、指定した文献・論文のレジュメ作成を受講者で分担頂きます。これとは別に、授業のなかで事例の紹介（簡単なメモの提出）、課題レポートの報告（事前提出）が必要です。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しませんが（授業毎に資料を配布します）、文献・論文（初回授業で指定します）を輪読します（分担してレジュメの作成、報告を頂きます）。輪読する文献・論文は、原則としてご自身で準備頂きます（文献の場合はご購入もしくは図書館から借りて頂くことになります。論文については、事前にＰＤＦや URL を共有します）。

【参考書】
授業のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（ディスカッションへの貢献等）、輪読のレジュメの作成・報告（レジュメの内容把握の的確さ、報告のわかりやすさ、質問への対応等）、事例紹介、課題レポートの執筆・報告（課題設定や仮説提示の的確さ、論旨展開における説得力等）で評価します。平常点 30 %、レジュメ 30 %、レポート 40 % を原則とします。
レポート未提出（提出期限を過ぎてからの提出を含む）の場合、評価点はゼロ（原則として D 評価）となりますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
概説の途中のディスカッションも好評でしたので継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器。輪読する文献。

【その他の重要事項】
欠席や遅刻・早退の場合は事前にご連絡ください。報告担当の回は原則として必ず出席してください（どうしても出席できない場合はお早めにご相談ください）。
感染症の状況によって授業運営が変更になる場合があります。学習支援システムで詳細をご案内しますので、ご登録をお願いいたします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
人的資源管理論、労働政策
＜研究テーマ＞
働き方改革、非正社員のキャリア形成、女性や高齢者の活躍推進、幹部候補の人材育成など
＜主要研究業績＞
『働き方改革の基本』（佐藤博樹・高見具広と共著、中央経済社、2020 年）
『営業職の人材マネジメント』（中央経済社、2012 年）

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞

In this course, students will learn what is a job, views of occupation, and the social structure that is underlying of them by understanding from historical and international point of view. After that, students will review a present state. Besides, students will learn a background or present state of Ability for Job Development Support Policy and Matching Job with Employee Policy and think about problems and what the ideal state of them. In this course, students are required to submit reports and documents to introduce examples, and you will give a presentation, have a discussion and review reports.

＜ Learning Objectives ＞

· It is possible to understand the position and view of occupation in relation to the social structure.

· It is possible to understand the current state of policies and issues of countries and companies involved in professional careers and to consider them from a compound perspective.

· For the preparation of a master's thesis, it will be possible to accurately set a subject, present a hypothesis, and develop a persuasive argument.

＜ Learning activities outside of classroom ＞

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

＜ Grading Criteria /Policy ＞

Grading will be decided based on in-class contributions (30%), summaries (30%), and reports (40%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

上西　充子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある論文執筆を目指す。
この演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を習得する。
演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を中心に展開する。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。
授業計画は、受講生の研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。
フィードバックは授業内でその都度、行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	研究テーマの検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	研究テーマの設定	問題意識と社会的な重要性を踏まえた研究テーマの設定について議論する。
第 4 回	先行研究の収集	研究テーマに関連する先行研究の体系的な収集について指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討	先行研究の読み込みと検討について指導を行う。
第 6 回	先行研究の再検討	先行研究の検討を通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の検討	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討するための指導を行う。
第 8 回	研究方法の再検討	適切な方法論に基づいた実現可能な研究方法について議論を行う。
第 9 回	研究方法の決定	適切な方法論に基づいた実現可能な研究方法を決定するための指導を行う。
第 10 回	調査内容の検討	調査内容について、指導を行う。
第 11 回	調査内容の再検討	調査内容について、改めて議論する。
第 12 回	調査の実施に関する検討	調査の実施について、指導を行う。
第 13 回	中間報告に向けて	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の手法という観点から行う。
第 14 回	中間報告内容の検討	中間報告に向けた準備内容について、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、指定する。

【参考書】
・木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994 年）
・小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016 年）
その他の参考書については、必要に応じて、随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
演習Ⅰでは、レジュメの作成と発表（20 %）、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（40 %）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（40 %）を評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
主体的な探求の力を高められるよう、促していきたい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001724/profile.html

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students receive research guidance for writing a master's thesis on career studies and aim to complete a master's thesis of high academic value and standard.
【Learning Objectives】
Students will learn to prepare a high-quality master's thesis, focusing on clarifying and setting up a theme, reviewing previous research, examining research methods, and conducting a survey.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take the initiative outside the classroom in carrying out the basic activities required to complete a master's thesis, including reading basic and related literature, learning research methods, collecting and analyzing data, and writing.
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Resume preparation and presentation: 20 %
Research framework based on previous studies: 40%
Clarity of the theme: 40 %

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

梅崎　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて自由議論を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて選定された研究テーマ案について議論を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討する。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	作成した先行研究の整理について授業内で報告してもらい、議論を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	前回授業で設定した調査対象、調査時期、調査内容の計画案について議論する。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査結果について報告してもらい、その内容について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査結果の検討に基づいて、調査計画の調整を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	追加的な調査の結果について議論する。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた報告案を作成してもらい、その内容について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と演習内での報告内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following in-class contribution(100%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

木村　琢磨

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（50 %）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（50 %）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
Learning activities outside of classroom
1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.
Grading Criteria
1. Research Report (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and
Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

児美川　孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書くが、院生やテーマによっては変更がありうる。
院生の発表等へのフィードバックは，授業時にそのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を考えるように指導する。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	研究テーマに基づいて，研究計画を策定できるように指導する。
第 5 回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集できるように指導する。
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究を読み込み、適切に整理できるように指導する。
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究を整理したうえで，研究上の論点を発見できるように指導する。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な研究方法を選択できるように指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	調査内容を決定できるように指導を行う。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について，概括的な枠組みを決めるように指導する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の方法について，具体的な設計を行うように指導する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査結果の分析方法について，一定の見通しが持てるように指導する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備・復習時間は，1 回につき 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指定する。

【参考書】
共通参考書
小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて指定する。

【Outline (in English)】
［Course outline］
Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes literature review for basic themes, construction of frameworks and hypotheses, and methodological planning.
［Learning Objectives］
The aim of this course is to help students write a master's thesis.
［Learning activities outside of classroom］
Students will be expected to work on the indicated task before and after each class meeting.
［Grading Criteria /Policy］
Your overall grade in the class will be decided based on mid-term report.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

齋藤　嘉孝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	研究テーマを焦点化し、絞り込む指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集するための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を読み込むための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究の検討を通して、自らの研究課題をより明らかにするための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、研究方法を検討するための指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を決定するための指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について企画・計画するための指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について運営・実施するための指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施についてフィールドの状態を確認するための指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、作成された具体的資料（原稿）をもとに指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。
授業参加 50 %、課題提出物 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

坂爪　洋美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

久井　英輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学述的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち,「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する（100 %）。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究進捗状況によって、当初予定していた指導スケジュールが変更となる可能性があるので、今年度においても状況に応じた柔軟かつ適切な対応を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to complete academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to acquire skills to write thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of thesis writing process.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Steadiness of research framework(50%), clarity of problem setting(50%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

佐藤　厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち,「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ（基準 50 %）、現状認識に基づく問題意識の明確さ（基準 50 %）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies Ⅰ, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

【Learning Objectives)】

A series of knowledge and techniques required for writing a master's thesis: clarification of problem awareness and theme setting, review of previous research related to the theme, acquisition of research methods and surveys that match the theme, analysis and interpretation of data. Acquire how to develop a logical essay, etc.

Career Design Exercise I focuses on clarifying problem awareness and setting themes, reviewing previous research related to the theme, examining research methods that match the theme, and conducting surveys so that high-quality dissertations can be created. The goal is to become.

【Learning activities outside of classroom】

Basic activities up to the completion of the master's thesis, such as reading basic literature and related literature, collecting and analyzing data, and writing, are required to be carried out independently outside the class.
In order to make effective use of the exercise time, it is necessary not only to proceed with the process for writing a dissertation in sequence outside the class, but also to explicitly inform the instructor in advance of the points for which guidance is sought on the day of the exercise. It will be important.
【Grading Criteria /Policy】
Independent and active participation, report content, and dissertation content are comprehensively evaluated.
It is important for the master's thesis to work independently based on individual awareness of the problem, and the reports and discussions of graduate students are the basic requirements.
For the master's thesis, the certainty of the theoretical framework of the research based on the previous research, the clarity of the problem awareness based on the recognition of the current situation, the firmness and validity of the empirical analysis, the development of logical statements, the importance and novelty of the theme. Gender etc. are evaluated.
Of these, Exercise I emphasizes the certainty of the research framework based on previous research (standard 50%) and the clarity of problem awareness based on current awareness (standard 50%) as evaluation criteria.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

佐藤　恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン授業となる場合もある。
オンライン授業となる場合、Zoom によるリアルタイム方式の授業とし、Zoom へのアクセス方法については、授業開始時刻までに、受講者にメールにて連絡する。
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下「授業計画」欄に基本的な内容を記す。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容・論文内容（50%）、平常点（50%）。
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
In Seminar on Career Studies Ⅰ, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.
（Learning Objectives）
By the end of the course, you should be able to acquire skills to write your academically valuable, high-level master's thesis.
（Learning activities outside of classroom）
Basic actions for completing master theses are required outside of classroom hours.
Your required study time is at least two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Thesis and reports : 50%, in class contribution: 50%

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

仲田　康一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する研究指導を受けながら、学術的に価値のある修士論文を完成させる。キャリア研究Ⅰでは、そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
構想発表のレポート 3 割、学期末での演習での中間発表 7 割にて評価する。

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケート、指導時に得た学生からの意見や要望、学生の状況などを踏まえて柔軟に対応することを継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当教員が指定する。

【Outline (in English)】
Students will acquire the ability to write academic reports in this class, typified by the master's thesis. By the end of the course, students should be able to do the following:
- To review previous studies and design its framework and hypotheses,
- To plan surveys.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on reports (30%) and mid-term presentations at the end of the semester exercise (70%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

武石　惠美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマや方法によっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指定する

【参考書】
必要に応じて指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて指定する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
【Learning Objectives】
Students will learn to prepare a high-quality master's thesis, focusing on clarifying and setting up a theme, reviewing previous research, examining research methods, and conducting a survey.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
【Grading Criteria/Policies】
100points (%) for completing mid-term thesis paper

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

田澤　実

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく）

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにするための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を、社会的な重要性を踏まえて研究テーマとして設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集することに習熟するための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に読み込むことに習熟するための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、倫理的な研究方法を検討し、かつ決定するための指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、よりレリバントな研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について基本的な指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について応用的な指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施についてより詳細な指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
共通参考書
小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ (以上 50 %)、経験的調査を踏まえたプレゼンテーションとライティング（50%）を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme for writing his/her master thesis. The goal of this class is for him/her to write a academically meaningful paper. Students will be expected to do all the things that are necessary to complete his/her master thesis. Study time will be as many hours as possible. Grading is based on the quality of the performance (theoretical understanding 50%, writing and presentation 50%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

田中　研之輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく）

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。
フィードバックは、修士論文の執筆段階に応じて、先行研究の整理、方法論の検討、事例分析の妥当性について、細かくアドバイスを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	先行研究の検討ー理論	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の理論をより明らかにしていくための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討ー方法	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討ー対象	調査対象に関連する対象の調査を先行研究の整理から実施する。
第 6 回	調査内容の検討	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 7 回	調査内容の設計	実際にどのようにして調査を進めていくかの計画的なプランニングを行う
第 8 回	プレ調査の実施	インタビューやヒアリング項目を精査するために、プレ調査の実施方法を指導する
第 9 回	プレ調査結果の検討	プレ調査結果の検討を行う。結果に応じて、適宜、インタビュー項目等を調整する
第 10 回	プレ調査結果の記述	プレ調査結果を踏まえて、質的調査の具体的な記述法を指導する
第 11 回	本調査内容の決定	プレ調査の結果を踏まえて、本調査の内容の決定を行う
第 12 回	本調査の実施に関する指導ー倫理面	本調査を実施する上でのプライバシーや倫理面での指導を行う
第 13 回	本調査の実施に関するー分析・記述面	本調査を実施する上での分析方法と記述方法を詳しく検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	研究の中間まとめとして、研究の方法・分析・記述を総合的に検討・再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
共通参考書
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.
【Work to be done outside of class】
The standard preparatory study and review time for this class is 4 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the writing research paper and the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

筒井　美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。本担当者の指導形態は zoom をメインとする。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、学術的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に読み込みむことを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査時期とサンプリングについて指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査内容と究明項目について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について方向性に留意して適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施についてサンプリングに留意して適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について調査内容に留意して適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

松浦　民恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	研究テーマを焦点化し、絞り込む指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集するための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を読み込むための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究の検討を通して、自らの研究課題をより明らかにするための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、研究方法を検討するための指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を決定するための指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について企画・計画するための指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について運営・実施するための指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施についてフィールドの状態を確認するための指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、作成された具体的資料（原稿）をもとに指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
授業時間外の学習時間は 1 回につき 4 時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。
授業参加 50 %、課題提出物 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

廣川　進

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

安田　節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。修士論文執筆を目指した指導を行う。演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及びリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を学ぶ。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習は個別指導が中心となる。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討する。
第 4 回	先行研究の検討②	研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	調査内容の決定	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第 6 回	調査内容や方法の検討	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 7 回	研究の中間とりまとめ①	中間報告に向けた準備を、研究の枠組みを考える。
第 8 回	研究の中間とりまとめ②	仮説構成、調査の方法を考える。
第 9 回	研究の中間のとりまとめ③	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 10 回	調査研究データの分析①	収集したデータの分析を行う。
第 11 回	調査研究データの分析②	収集したデータ分析の結果整理を行う。
第 12 回	データの解釈	データの解釈を深く検討する
第 13 回	研究の総合考察	総合考察の検討と総合的なまとめ
第 14 回	研究の結論の検討	総合考察と結論の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する（100%）。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。修士論文自体は統一基準（学位基準など）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
Students will prepare for writing their master's theses in this graduate seminar by working closely with their faculty advisers. In Graduate Seminar I, students will first conduct literature review followed by forming their research frameworks and developing a series of research questions. Throughout these processes, they will acquire skills to conduct a graduate-level research study.
Learning Objectives:
· Understand basics of research activities
· Know how to analyze data by using scientific methods
· Develop skills to complete your master's thesis
Learning activities outside of classroom:
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
100points (%) for completing mid-term thesis paper

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

熊谷　智博

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視し、演習内での研究発表によって 100 %評価する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
In Seminar on Career Studies Ⅰ, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.
Goals of this course are that students understand scientific way of study, and become to write a master thesis.
It is important to manage your schedule of study, and make points clear of your finding before you set meeting with your supervisor.
Grading will be decided based on presentation of student's study(100%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

上西　充子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
この演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述を展開する方法などを習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を中心に展開する。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。
授業計画は、受講生の研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。
フィードバックは授業内でその都度、行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰおよび中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	進捗状況の確認と問題意識の検討	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。現状の問題意識を改めて検討する。
第 3 回	調査方法の妥当性の検討	調査方法の妥当性を改めて検討する。
第 4 回	先行研究を踏まえた調査結果の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、先行研究を踏まえて確認する。
第 5 回	リサーチクエスチョンの検討	調査結果のとりまとめにあたり、リサーチクエスチョンを検討する。
第 6 回	仮説の確認	分析と解釈に向け、仮説を確認する。
第 7 回	分析方法の妥当性の検討	問題意識の明確さを確認し、分析方法の妥当性を検討する。
第 8 回	解釈の妥当性の検討	各章ごとの論理整合性を確認し、解釈の妥当性を検討する。
第 9 回	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法など, 学術論文へと仕上げていく指導を行う。
第 10 回	論文構成のアドバイス	論文構成のアドバイスを行う。
第 11 回	用語の定義の確認	用語の定義の確認を行う。
第 12 回	論文の限界についての検討	論文の限界についての検討を行う。
第 13 回	誤字脱字チェック	誤字脱字のチェックを行い、修士論文の完成度を高めるための指導を行う。
第 14 回	体裁全体のチェック	体裁全体のチェックを行い、修士論文の完成度を高めるための指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査手法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、指定する。

【参考書】
・木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994 年）
・小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法―他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016 年）
その他の参考書については、必要に応じて、随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40 %）、論理的な論文の展開（40 %）、テーマの重要性・斬新性（20 %）を評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
みずからの言葉による論理構成ができるよう、支援していきたい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001724/profile.html

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students receive research guidance for writing a master's thesis on career studies and aim to complete a master's thesis of high academic value and standard.
【Learning Objectives】
Students will learn to prepare a high-quality master's thesis, focusing on analyzing and interpreting data, developing and summarizing a logical argument.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to take the initiative outside the classroom in carrying out the basic activities required to complete a master's thesis, including reading basic and related literature, learning research methods, collecting and analyzing data, and writing.
Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Solidity and validity of the empirical analysis: 40 %
Logical description: 40%
Importance and novelty of the theme: 20 %

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

梅崎　修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文で使われる用語の確認を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	研究の今後の課題を検討し、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following in-class contribution(100%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

木村　琢磨

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（40%）、論理的な論文の展開（40 %）、テーマの重要性・斬新性 (20) %を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
Learning activities outside of classroom
1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.
Grading Criteria
1. Research Report (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and
Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

児美川　孝一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書くが、院生やテーマによっては変更がありうる。
院生の発表等に対するフィードバックは，授業時にそのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の報告	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し，必要な指導を行う。
第 3 回	調査の継続遂行についての指導	調査を継続していくにあたり，必要な配慮，改善点などについて指導を行う。
第 4 回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導①	調査結果の分析方法について，関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第 5 回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導②	調査結果の分析方法について，第 4 回とは異なる関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第 6 回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導③	調査結果の解釈の方法について，関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第 7 回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導④	調査結果の解釈の方法について，第 6 回とは異なる関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第 8 回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導⑤	調査結果の分析方法，解釈について，第 4 回～第 7 回で触れられなかった点を中心に総合的な指導を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法について指導を行う。
第 10 回	論文執筆の助言、指導②	先行研究の整理，言及の方法について指導を行う。
第 11 回	論文執筆の助言、指導③	調査結果の分析法，考察の展開の仕方について指導を行う。
第 12 回	論文の最終チェック①	修士論文の構成を中心として，論文の最終チェックのための指導を行う。
第 13 回	論文の最終チェック②	調査結果と考察との関係が整合的であるかどうかを中心として，論文の最終チェックのための指導を行う。
第 14 回	論文の最終チェック③	修士論文の完成度を高めるための最終チャックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備・復習時間は，1 回につき 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指定する。

【参考書】
共通参考書
小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて指定する。

【Outline (in English)】
［Course outline］
Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes literature review for basic themes, construction of frameworks and hypotheses, and methodological planning.
［Learning Objectives］
The aim of this course is to help students write a master's thesis.
［Learning activities outside of classroom］
Students will be expected to work on the indicated task before and after each class meeting.
［Grading Criteria /Policy］
Your overall grade in the class will be decided based on mid-term report.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

齋藤　嘉孝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、調査方法の妥当性の検討を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討を行う。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認を行う。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方、とりわけ妥当性を総括的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	論文の執筆に向けて、詳細に調査結果の取りまとめ方を批判的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイスを行う。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認を行う。
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界について検討する。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字のチェックを行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。
授業参加 50 %、課題提出物 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

坂爪　洋美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

久井　英輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち,「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。

一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェッ ク。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する（100 %）。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の研究進捗状況によって、当初予定していた指導スケジュールが変更となる可能性があるので、今年度においても状況に応じた柔軟かつ適切な対応を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
社会教育学
＜研究テーマ＞
近現代社会教育史、社会教育職員研究、社会教育行政研究
＜主要研究業績＞
『社会教育・生涯学習研究のすすめ―社会教育の研究を考える―（講座　転形期の社会教育 6）』学文社、2015 年（共編著）
『近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容―社会教育の対象／主体への認識をめぐる歴史的考察―』学文社、2019 年（単著）

【Outline (in English)】
(Course Outline)
The aim of this course is to complete academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to help students to obtain skills to write thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.
(Learning Activities Outside of Classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Steadiness and validity of analysis(30%), logicality of discussion(40%), importance and originality of research theme(30%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤　厚

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性　主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性（基準 30 点）、論理的な論文の展開（基準 30 点）、テーマの重要性・斬新性（基準 40 点）などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
In Seminar on Career Studies Ⅱ, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.
【Goal】
A series of knowledge and techniques required for writing a master's thesis: clarification of problem awareness and theme setting, review of previous research related to the theme, acquisition of research methods and surveys that match the theme, analysis and interpretation of data. Acquire how to develop a logical essay, etc.
In Career Design Exercise II, you will learn how to analyze and interpret the data obtained from the survey, develop logical statements, and focus on how to organize a storyline, so that you will be able to create high-quality dissertations. Target.
【Learning activities outside of classroom】
Basic activities up to the completion of the master's thesis, such as reading basic literature and related literature, collecting and analyzing data, and writing, are required to be carried out independently outside the class.
In order to make effective use of the exercise time, it is necessary not only to proceed with the process for writing a dissertation in sequence outside the class, but also to explicitly inform the instructor in advance of the points for which guidance is sought on the day of the exercise. It will be important.
【Grading Criteria /Policy】
It is important for the master's thesis to work independently based on individual awareness of the problem, and the reports and discussions of graduate students are the basic requirements.
For the master's thesis, the certainty of the theoretical framework of the research based on the previous research, the clarity of the problem awareness based on the recognition of the current situation, the firmness and validity of the empirical analysis, the development of logical statements, the importance and novelty of the theme. Gender etc. are evaluated.
Of these, Exercise II comprehensively evaluates the firmness and validity of empirical analysis, proactive and active participation, report content, and dissertation content.
It is important for the master's thesis to work independently based on individual awareness of the problem, and the reports and discussions of graduate students are the basic requirements.
For the master's thesis, the certainty of the theoretical framework of the research based on the previous research, the clarity of the problem awareness based on the recognition of the current situation, the firmness and validity of the empirical analysis, the development of logical statements, the importance and novelty of the theme. Gender etc. are evaluated.
Of these, Exercise II emphasizes the firmness and validity of empirical analysis (criteria 30 points), the development of logical dissertations (criteria 30 points), and the importance and novelty of themes (criteria 40 points).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤　恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン授業となる場合もある。
オンライン授業となる場合、Zoom によるリアルタイム方式の授業とし、Zoom へのアクセス方法については、授業開始時刻までに、受講者にメールにて連絡する。
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下「授業計画」欄に基本的な内容を記す。
なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
報告内容・論文内容（50%)、平常点（50%）。
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
In Seminar on Career Studies Ⅱ, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.
（Learning Objectives）
By the end of the course, you should be able to acquire skills to write your academically valuable, high-level master's thesis.
（Learning activities outside of classroom）
Basic actions for completing master theses are required outside of classroom hours.
Your required study time is at least two hours each for before and after the classes.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Thesis and reports : 50%, in class contribution: 50%

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

仲田　康一

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
学位基準に基づく論文および口述試験の評価（100 %）。
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケート、指導時に得た学生からの意見や要望、学生の状況などを踏まえて柔軟に対応することを継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
Students will acquire the ability to write academic reports in this class, typified by the master's thesis.
By the end of the course, students should be able to do the following:
− To analyze and interpret the data obtained from the research,
− To learn how to write a paper focusing on logical argument development.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on the evaluation of papers and oral examinations (100%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

武石　惠美子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に、院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマや方法によっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認（1） 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認（2） 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（1） 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。先行研究の確認を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。リサーチクエスチョンの検討を行う。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（3） 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。仮説の確認を行う。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（4） 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（5） 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導（1）	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導（2） 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文構成のアドバイスを行う。
第 11 回	論文執筆の助言、指導（3） 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認を行う
第 12 回	論文執筆の助言、指導（4） 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック（1） 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェックを行う。
第 14 回	論文の最終チェック（2） 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査手法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は各 3 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、指定する。

【参考書】
必要に応じて、指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。実証分析の手堅さと妥当性（40 %）、論理的な論文の展開（40 %）、テーマの重要性・斬新性（20 %）を評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、指定する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.
【Learning Objectives】
Students will learn to prepare a high-quality master's thesis, focusing on analyzing and interpreting data, developing and summarizing a logical argument.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
【Grading Criteria/Policies】
100points (%) for completing thesis paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田澤　実

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、特に実証面で指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、特に理論面で指導を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析に関する指導を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した解釈に関する指導を行う。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した理論面に関する指導を行う。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、先行研究との照らし合わせ方に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、序論と結論の適合性に関する指導を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成の指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2)	論述方法の指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3)	先行研究への言及の方法の指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4)	データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章の構成の観点から行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書
小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、テーマの理論的重要性・斬新性 (50%)、論理的な論文の展開、実証分析の手堅さと妥当性（50%）を評価基準として重視する。(50%)

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme for writing his/her master thesis. The goal of this class is for him/her to write a academically meaningful paper. Students will be expected to do all the things that are necessary to complete his/her master thesis. Study time will be as many hours as possible. Grading is based on the quality of the performance (theoretical relevance and originality 50%, analytic writing and presentation 50%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田中　研之輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認（2）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 4 回	調査の分析と執筆計画の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（1）	調査結果の取りまとめについて、特に、データ抽出の指導・検討を行う
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（2）	調査結果の取りまとめについて、特に、先行研究とデータ抽出との関係性に関する指導・検討を行う
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（3）	調査結果の取りまとめについて、特に、データ抽出の分析方法と記述について指導・検討を行う
第 8 回	論文指導の助言・指導（1）	修士論文の完成度を高めるための指導を、特に、研究の目的と方法の観点から行う。
第 9 回	論文指導の助言・指導（2）	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第 10 回	論文指導の助言・指導（3）	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 11 回	論文の最終チェック（1）	研究の目的や研究方法の記述について詳細な検討を行う
第 12 回	論文の最終チェック（2）	先行研究の検討と本論文の意義について詳細な検討を行う
第 13 回	論文の最終チェック（3）	分析結果と記述内容、結果について詳細な検討を行う
第 14 回	研究報告の検討	書き上げた論文を学会等で報告する際の研究報告について指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準 (100%) として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.
【Work to be done outside of class】
Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
【Grading criteria】
Submission assignment (20%), normal score (80%).
The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.
The normal score is based on the writing research paper and the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

筒井　美紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。本担当者の指導形態は zoom をメインとする。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、現状の問題意識を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、調査方法の妥当性を検討し、適宜指導を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した先行研究の確認に関する指導を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即したリサーチクエスチョンに関する指導を行う
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した仮説の確認に関する指導を行う
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析方法の妥当性に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した解釈の妥当性に関する指導を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1) 全体構成	論文の構成、論述方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 先行研究への言及方法	先行研究への言及方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義	用語の定義の確認などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界について	論文の限界についての指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、誤字脱字チェックをしながら行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is fo the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

松浦　民恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、調査方法の妥当性の検討を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討を行う。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認を行う。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方、とりわけ妥当性を総括的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	論文の執筆に向けて、詳細に調査結果の取りまとめ方を批判的に検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。解釈の妥当性の検討を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイスを行う。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認を行う。
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。論文の限界について検討する。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字のチェックを行う。
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。
授業時間外の学習時間は 1 回につき 4 時間以上を目処とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。
授業参加 50 %、課題提出物 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper. Learning objectives of this course is to get skills in order to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation. Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

廣川　進

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is fo the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

安田　節之

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

熊谷　智博

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法――問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など――を獲得する。
キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。　一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.
In Seminar on Career Studies Ⅱ, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions. Goals of this course are that students understand scientific way of study, and become to write a master thesis.
It is important to manage your schedule of study, and make points clear of your finding before you set meeting with your supervisor.
Your overall grade in the class will be decided based on your study and a master thesis(100%).

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ（代表シラバス）

廣川　進

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。
そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討 (1)	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討 (3)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (1)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (2)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討 (3)	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (1)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (2)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導 (3)	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ (1)	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ (2)	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、研究方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ（代表シラバス）

廣川　進

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。
学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法―問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の理解と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など―を習得する。
このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。
時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態 (zoom の活用など) や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。
修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。
本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。
授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1) 現状の問題意識	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2) 調査方法の妥当性	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。調査方法の妥当性の検討
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1) 先行研究の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う先行研究の確認。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2) リサーチクエスチョンの検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行うリサーチクエスチョンの検討。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3) 仮説の確認	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う仮説の確認。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (4) 分析方法の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (5) 解釈の妥当性の検討	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う解釈の妥当性の検討。
第 9 回	論文執筆の助言、指導 (1)	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導 (2) 論文構成のアドバイス	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく論文構成のアドバイス。
第 11 回	論文執筆の助言、指導 (3) 用語の定義の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。用語の定義の確認
第 12 回	論文執筆の助言、指導 (4) 論文の限界についての検討	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 13 回	論文の最終チェック (1) 誤字脱字チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。誤字脱字チェック
第 14 回	論文の最終チェック (2) 体裁全体のチェック	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。体裁全体のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本文献・関連文献の読み込み、調査方法の習得、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。
演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】
必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】
主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。
修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。
修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。
そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】
院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline (in English)】
This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

法政大学
HOSEI University